

Nutanix.NCP-MCI-6.10.v2026-07-23.q86

試験コード：	NCP-MCI-6.10
試験名称：	Nutanix Certified Professional - Multicloud Infrastructure (NCP-MCI v6.10)
認証ベンダー：	Nutanix
無料問題の数：	86
バージョン：	v2026-07-23
ページの閲覧量：	105
問題集の閲覧量：	947
https://www.jpnsshiken.com/shiken/Nutanix.NCP-MCI-6.10.v2026-07-23.q86.html	

質問: 1

管理者がAHVホストのLCMアップグレードを開始したが、アップグレードが計画されたメンテナンス期間を超えることに気づいた。

追加のアップデートが発生しないようにするには、どの機能を利用すべきでしょうか？

- A. Ergonコマンドライン (ecli)を使用してLCMタスクをキャンセルします。
- B. thelcm_task_cleanup.pyscriptを実行します。
- C. RestartGenesis クラスタで LCM サービスを再起動します。
- D. LCM の 「更新停止」機能を使用します。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Life Cycle Manager (LCM) のアップグレードを実行する場合、プロセスを停止する推奨方法は、LCM の 「更新の停止」機能を使用することです (オプション D)。

- * オプション A (Ergon ecli 経由でキャンセル) は、実行中のタスクに手動で介入すると不整合が発生する可能性があるため、推奨される方法ではありません。
- * オプション B (lcm_task_cleanup.py スクリプト) はアップグレード後のクリーンアップに使用されますが、進行中の更新を停止しません。
- * オプション C (Genesis の再起動) は LCM のアップグレードを停止せず、不安定性を引き起こす可能性があります。

参考文献：

- * Nutanix Life Cycle Manager (LCM) ユーザーガイド
- * Nutanix KB: LCM タスクの停止と再起動に関するベストプラクティス
- * Nutanix Prism Central #LCM 機能ドキュメント

質問: 2

An administrator needs to perform anLCM upgradeon anAHV host with GPUs.

What additional step is required before upgrading the host?

- A. Create an agent VM on each host that has GPU drivers installed.
- B. Run LCM in dark site mode so it can update AHV independently.
- C. Use Direct Uploads to upload appropriate driver bundles.
- D. Update NCC to the latest version and re-run Inventory.

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Upgrading an AHV host with GPUs requires that the correct GPU drivers be manually uploaded to LCM, as GPU firmware is not updated automatically.

- * Option C (Use Direct Uploads to upload appropriate driver bundles) is correct:
- * LCM does notautomatically fetch GPU drivers.
- * The administrator mustdownload and manually upload the appropriate firmware bundle before upgrading.
- * Option A is incorrect:

- * Agent VMs are not requiredfor GPU updates.
- * Option B is incorrect:
- * Running LCM indark site mode does not impact GPU firmware updates.
- * Option D is incorrect:
- * Updating NCCis a best practice but does not resolve GPU driver issues.

References:

- * Nutanix LCM Guide#Manually Uploading GPU Firmware Bundles
- * Nutanix KB#Updating AHV Hosts with GPUs

質問: 3

管理者は、仮想マシンが消費している複数のストレージ帯域幅メトリックを示す単一のグラフを作成する必要があります。

管理者はどのタイプのチャートを作成すべきでしょうか？

- A. メートル法チャート
- B. エンティティチャート
- C. ハイパーバイザーのパフォーマンスチャート
- D. VM概要チャート

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Nutanix Prism Centralのエンティティチャートを使用すると、単一のエンティティ（VM、ストレージコンテナなど）からの複数のメトリックを単一のグラフに表示できます。

- * オプションB（エンティティチャート）が正解です。
- * これにより、管理者は特定の仮想マシンの複数のパフォーマンス指標（読み取り/書き込み帯域幅、IOPSなど）を追跡できます。
- * オプションA（メートル法チャート）は誤りです。
- * メトリックチャートは、複数のエンティティにわたって単一のメトリックを追跡するため、単一のVMに対して複数のメトリックを表示するという要件を満たしていません。
- * オプションC（ハイパーバイザーパフォーマンスチャート）は誤りです。
- * ハイパーバイザーのパフォーマンスチャートは、VM固有の帯域幅メトリックではなく、ホストレベルのメトリックを追跡します。
- * オプションD（VMサマリーチャート）は誤りです。
- * VMサマリーチャートは概要のみを提供し、カスタムマルチメトリック追跡はサポートしていません

。

参考文献：

- * Nutanix Prism Central ガイド#パフォーマンス分析のためのエンティティチャートとメトリックチャート
- * Nutanix KB# Prism Central でカスタム チャートを作成する

質問: 4

管理者が、ノード間のサービスレベルのトラフィックを暗号化するために、スケールアウト型の Prism Central クラスタでデータ転送暗号化を有効にしようとした。しかし、ファイアウォールの制限により、この機能は正しく動作しませんでした。

データ転送暗号化のために、ファイアウォールで許可すべきCVM固有のポートはどれですか？

- A. 2009
- B. 2010
- C. 2020
- D. 9440

正解: A ([コメントを发表する](#))

Nutanixにおけるデータ転送時の暗号化には、特定のCVMポートを介したノード間通信が必要です。

- * オプションA ポート2009)が正解です。
- * ポート2009は、Nutanix CVM間のデータ転送暗号化に使用されます。
- ファイアウォールルールでは、安全な暗号化通信を可能にするために、このポートでのトラフィックを許可する必要があります。
- * オプションB ポート2010)は誤りです。
- * ポート2010はCVM間の通信に使用されますが、暗号化は処理しません。
- * オプションC ポート2020)は誤りです。
- * このポートは暗号化ではなく、Acropolisファイルサービス AFS)に使用されます。
- * オプションD ポート9440)は誤りです。
- * ポート9440は、内部CVM暗号化ではなく、Prism CentralのWebアクセスに使用されます。

参考文献：

- * Nutanix セキュリティガイド#保存データ暗号化と転送データ暗号化
- * Nutanix KB#セキュアなクラスタ通信のためのファイアウォールポート要件

質問: 5

管理者は、GPUを搭載したAHVホスト上でLCMアップグレードを実行する必要があります。
ホストをアップグレードする前に、他にどのような手順が必要ですか？

- A. GPUドライバがインストールされている各ホスト上にエージェントVMを作成します。
- B. NCCを最新バージョンにアップデートして、インベントリを再実行してください。
- C. 適切なドライババンドルをアップロードするには、ダイレクトアップロードを使用します。
- D. LCMをダークサイトモードで実行して、AHVを独立して更新できるようにします。

正解: B (コメントを发表する)

質問: 6

Refer to Exhibit:



Password-based remote login is enabled on the cluster. It is recommended to use key-based ssh access instead of password-based ssh access for better security.

An administrator sees the alert shown in the exhibit.

Nutanixユーザーがパスワードを使用してCVMにSSH接続できないようにするには、管理者は何をすべきでしょうか？

- A. Nutanixユーザーの名前を変更します。

- B. CVMファイアウォールでポート22をブロックします。
- C. クラスタロックダウンを有効にする。
- D. Nutanixユーザーを削除します。

正解: C ([コメントを發表する](#))

展示物と警告内容の理解

警告文には次のように記載されています。

- * クラスタは、CVMへのSSHアクセスにパスワードを使用しています。」
- * クラスタ上でパスワードによるリモートログインが有効になっています。」
- * セキュリティ向上のため、パスワードベースのSSHアクセスではなく、キーベースのSSHアクセスを使用することをお勧めします。」これは、Nutanixユーザーがパスワードを使用してコントローラーVM (CVM)にログインできることを意味し、セキュリティリスクとなります。

是正措置 :クラスタロックダウンの有効化

- C)クラスタロックダウンを有効にする。(正解)
- * クラスタロックダウンモードでは、パスワードによるSSHアクセスが制限され、鍵認証が強制されます。
- * これにより、ユーザーがパスワードを使用してCVMにログインすることを防止し、クラスタのセキュリティを強化します。
- * クラスタロックダウンを有効にするには :
- * Prism CentralまたはPrism Elementにアクセスしてください。
- * [設定]>[セキュリティ]>[クラスタロックダウン]に移動します。
- * クラスタロックダウンモードを有効にする。

他の選択肢を評価する

#(A) Nutanixユーザーの名前を変更します。(誤)

- * Nutanixユーザーは、クラスタ操作に必要な組み込みシステムアカウントです。ユーザー名を変更しても、パスワードによるSSHアクセスは防止されません。

B)CVMファイアウォールでポート22をブロックする。(誤)

- * ポート22 (SSH)をブロックすると、鍵認証を含むSSHアクセスが完全に無効になります。
- * これにより、クラスタ管理およびトラブルシューティング操作が失敗する可能性があります。

#(D) Nutanixユーザーを削除します。(誤)

- * Nutanixユーザーは、クラスタ機能に必要な重要なシステムアカウントです。アカウントを削除すると、クラスタ管理に深刻な問題が発生します。

マルチクラウドインフラストラクチャのリファレンスとベストプラクティス

- * Nutanix セキュリティのベストプラクティス :
- * パスワードによるログインではなく、常に鍵ベースのSSH認証を使用してください。
- * セキュリティポリシーを適用するには、クラスタロックダウンモードを有効にしてください。
- * セキュリティコンプライアンスを確保するため、ユーザーアクセスを定期的に監査する。
- * クラスタ封鎖のメリット :
- * パスワードによる不正なSSHアクセスを防止します。
- * 公開鍵認証を強制し、ブルートフォース攻撃のリスクを軽減します。
- * 潜在的な脆弱性に対するCVMのセキュリティを強化します。

参考文献 :

- * Nutanixセキュリティガイド #SSHセキュリティのためのクラスタロックダウンの有効化

* Nutanix KB # Nutanix クラスターでの SSH アクセスの保護

質問: 7

管理者が、2台のMicrosoft Windows仮想マシン間でストレージ性能テストを実行しています。1台目の仮想マシンはテンプレートを使用してデプロイされたもので、2台目はゼロから作成されたものです。

結果によると、同じパフォーマンス テストを使用した場合でも、VM 間で非常に異なる指標が示されました。最初の VM は 8000 IOPS に達する一方、2 番目の VM は 500/800 IOPS に達するのに苦労しています。現在、AHV クラスターは負荷がかかっていません。

管理者は、これらの結果が生じた理由をどのように判断できるのでしょうか？

- A. VMIに割り当てられているVCPUの数を確認する
- B. VM間でvDiskバスタイプを比較します。
- C. 両方の仮想マシンに Nutanix Guest Tools がインストールされていることを確認します。
- D. 2 番目の VM で AHV Turbo を有効にします。

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 8

What would cause an LCM pre-check event with the test_esx_entering_mm_pinned_vms check during an AOS upgrade?

- A. HA priority settings are misconfigured.
- B. Host has insufficient memory.
- C. VMs on the host have high CPU usage.
- D. Affinity rules are configured to prevent VM migration.

正解: ([正解を表示します](#))

The test_esx_entering_mm_pinned_vms check in an AOS upgrade validates whether there are any pinned VMs on ESXi hosts, which could prevent host maintenance mode transitions.

From theNutanix Enterprise Cloud Administration (ECA)course materials:

"Affinity or anti-affinity rules that pin VMs to specific hosts prevent those VMs from migrating during host maintenance mode entry. This directly triggers a failure in the LCM precheck test_esx_entering_mm_pinned_vms check."

質問: 9

Refer to Exhibit



After adding new workloads, why is Overall Runway below 365 days and the scenario still shows the cluster is in good shape?

- A. Because the Target is 1 month.
- B. Because new workloads are sustainable.
- C. Because there are recommended resources.
- D. Because Storage Runway is still good.

正解: (正解を表示します)

質問: 10

管理者はNutanixの災害復旧ソリューションの設定を担当し、サイト間で同期レプリケーションを確立しました。さらに耐障害性を高めるため、各サイトではローカルのAHVクラスタを管理する独自のPrism Centralインスタンスが稼働しています。

管理者に対し、プライマリサイトのデータセンターにおける計画的なメンテナンスのためにフェイルオーバーが必要である旨が通知された。

管理者はどのような2つの方法で対応すべきでしょうか？ 2つ選択してください。）

- A. クラスター間でオンデマンドのライブマイグレーションを実行します。

- B. 待機サイトから計画的なフェイルオーバーを実施する。
- C. プライマリサイトから計画外のフェイルオーバーを実行します。
- D. プライマリサイトから計画的なフェイルオーバーを実行する

正解: **B,D** ([コメントを発表する](#))

同期レプリケーションが構成されており、データセンターのメンテナンスのために計画的なフェイルオーバーが必要な場合、Nutanixはデータの一貫性とサービスの円滑な移行を確保するために、計画的なフェイルオーバーを実行することを推奨します。

Nutanix Enterprise Cloud Administration (ECA) コースの教材より：

「計画的なフェイルオーバーにより、ワークロードの移行前にプライマリサイトとスタンバイサイトでデータのレプリケーションが完了し、一貫性が保たれることが保証されます。これにより、データ損失を防ぎ、シームレスな復旧が実現します。」さらに：

「計画的なフェイルオーバーは、プライマリサイトまたはスタンバイサイトのいずれからでも開始できます。これにより、運用上の好みやメンテナンス期間中のサイトの可用性に応じて柔軟に対応できます。」

"Unplanned failovers should only be used in the event of unexpected site outages or catastrophic failures, as they may involve data loss or incomplete synchronization." Therefore, the correct approaches are to conduct a planned failover either from the standby site (B) or from the primary site (D). This ensures seamless workload transition during the datacenter maintenance event.

質問: **11**

LCMのどのアップデートを管理者はノードごとに適用できますか？

- A. へ
- B. BMC
- C. NCC
- D. AHV

正解: **B** ([コメントを発表する](#))

Nutanix LCMでは、BMC (ベースボード管理コントローラー)のアップデートはノードごとに適用できます。これは、クラスタ全体のアップグレードが必要なAOSやAHVとは異なります。

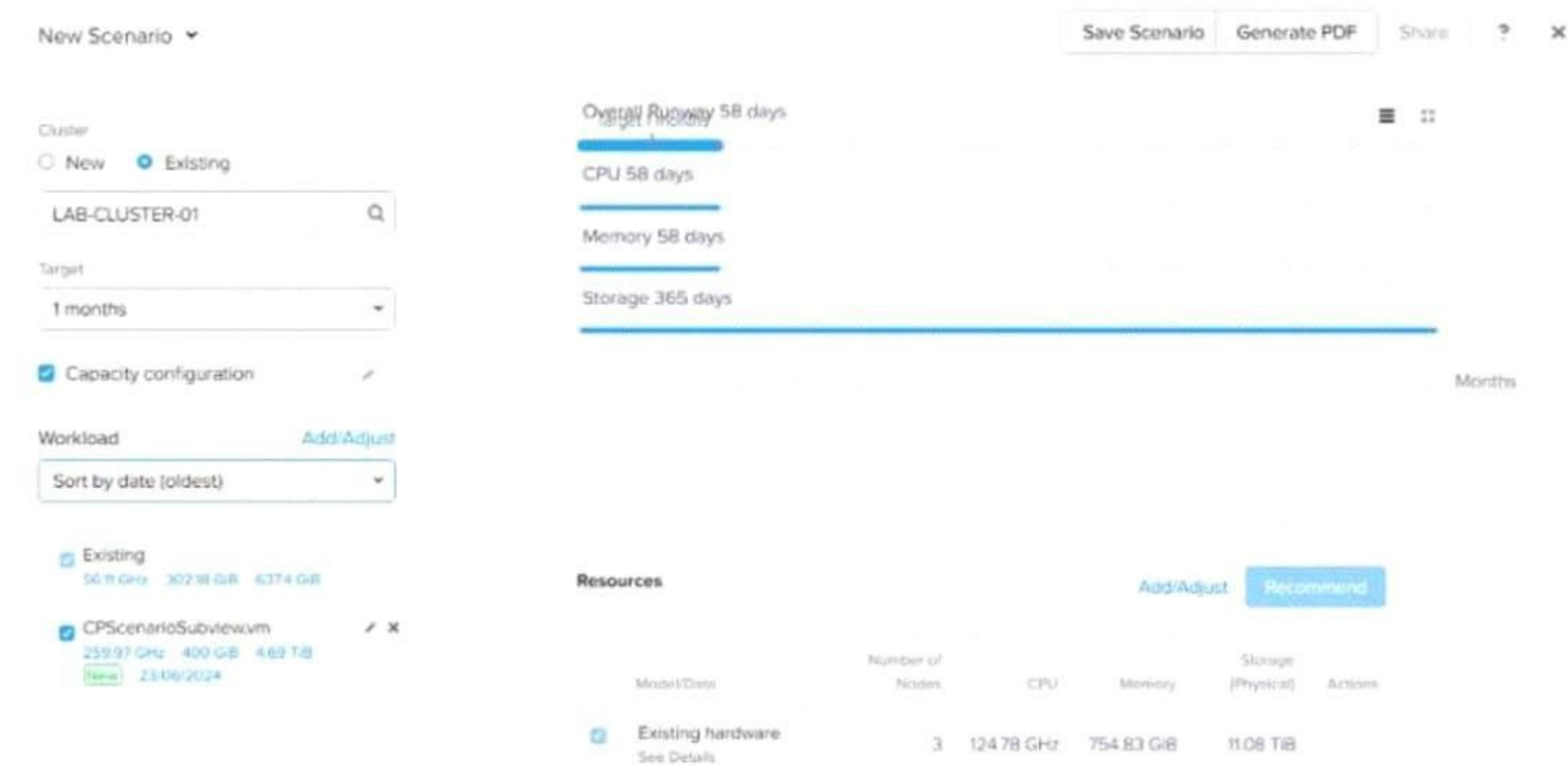
- * オプションB (BMC)が正解です。
- * BMCファームウェアは、個々のノードのリモート管理と電源サイクルを制御します。
- * BMCのアップデートはクラスタ全体に影響を与えるのではなく、ノードごとに実行できます。
- * オプションA (AOS)は誤りです。
- * AOSのアップグレードはクラスタ全体に影響を与え、クラスタ全体の整合性が必要です。
- * オプションC (NCC)は誤りです。
- * NCCのアップデートはすべてのノードに同時に適用され、チェックの均一性を確保します。
- * オプションD (AHV)は誤りです。
- * AHVのアップデートでは、VMの可用性を維持するために、ホスト間での協調的なアップグレードが必要です。

参考文献：

- * Nutanix LCM ユーザーガイド#ノードごとのファームウェアアップデート
- * Nutanix KB#LCMを使用してBMCをアップグレードする方法

質問: **12**

添付資料を参照してください。



新しいワークロードを追加した後、なぜ「全体的な稼働期間」が365日を下回っているのに、シナリオではクラスターの状態が良好と表示されるのでしょうか？

A. ストレージランウェイは依然として優れているからです。

B. 新しいワークロードは持続可能であるため。

C. 推奨リソースがあるからです。

D. 目標が1ヶ月だからです。

正解: B ([コメントを发表する](#))

Nutanixのキャパシティプランニングにおいて、全体的な稼働期間は、リソースが枯渇する前にクラスターが現在および新規のワークロードをサポートできる期間を表します。

* Even if the runway is below 365 days, the system considers the cluster to be in good shape if new workloads are sustainable (Option B).

* Option A is incorrect: Storage runway alone is not the only factor; CPU and memory are equally important.

* Option C is incorrect: The presence of recommended resources does not mean the cluster is in good shape.

* Option D is incorrect: The target of 1 month affects projections but does not explain why the cluster is in good shape.

References:

* Nutanix Prism Central # Capacity Runway and Planning

- * Nutanix Bible # Workload Placement and Cluster Sizing
- * Nutanix Support KB # Capacity Planning Best Practices

質問: 13

管理者は、以下の条件を満たす 『TestData』という名前のストレージコンテナを作成する必要があります。

複製係数 RF) ⇒ RF1)

インライン圧縮が有効になっています

重複排除が無効になっています

最大ストレージ容量 = 100 GiB

管理者はこのタスクをどのように完了すべきでしょうか？

- A. Prism Centralにログインしてストレージコンテナを作成します。
- B. Prism Elementにログインし、広告容量100 GiBのストレージコンテナを作成します。
- C. Prism Elementにログインして、ストレージコンテナを作成します。
- D. Prism Centralにログインし、予約容量100 GiBのストレージコンテナを作成します。

正解: (正解を表示します)

質問: 14

An administrator is working with a network engineer to design the network architecture for a DR failover.

Because DNS is well-designed, the DR site will use a different subnet but retain the same last octet in the IP address.

What is the best way to achieve this?

- A. Use a custom script to update the IP address after instantiation in DR.
- B. Set up IPAM so the address is dynamically assigned during DR.
- C. Manually log into VMs after the DR event and update the last octet.
- D. Utilize Recovery Plan Offset-based IP mapping.

正解: D (コメントを發表する)

Offset-based IP mapping in Nutanix Recovery Plans allows automatic subnet changes during DR failover.

* Option D (Utilize Recovery Plan Offset-based IP mapping) is correct:

* This method automatically adjusts the IP range while keeping the same last octet.

* It eliminates the need for manual intervention after failover.

* Option A (Custom script) is incorrect:

* Scripting is an option, but Recovery Plan IP mapping is simpler and native to Nutanix.

* Option B (Use IPAM) is incorrect:

* IP Address Management (IPAM) is useful, but offset-based mapping provides more control.

* Option C (Manually update IPs) is incorrect:

* This would be time-consuming and error-prone.

References:

- * Nutanix Disaster Recovery Guide #Using Offset-Based IP Mapping
- * Nutanix KB #Best Practices for Managing IP Addresses in DR

質問: 15

An administrator is configuring Protection Policies to replicate VMs to a Nutanix Cloud Cluster (NC2) over the internet.

セキュリティポリシーを遵守するためには、データ送信中にどのようにデータを保護すべきでしょうか？

- A. 自己暗号化ドライブ上のデータを設定します。
- B. UEFIセキュアブートを使用するようにVMを構成します。
- C. 保存データの暗号化を有効にする。
- D. 転送中のデータ暗号化を有効にする。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

データ転送暗号化により、レプリケーショントラフィックはインターネット経由で送信される際に暗号化されます。

- * オプションD（転送中のデータ暗号化を有効にする）が正解です。
- * これにより、クラスター間で複製されたデータが暗号化され、中間者攻撃に対するセキュリティが確保されます。
- * オプションA（自己暗号化ドライブ）は誤りです。
- * これは、送信中のデータではなく、保存中のデータを保護するものです。
- * オプションB（UEFIセキュアブート）は誤りです。
- * セキュアブートは、不正なOSの変更を防止しますが、ネットワークトラフィックを暗号化しません。
- * オプションC（保存データの暗号化）は誤りです。
- * これは保存されたデータを暗号化しますが、レプリケーションのトラフィックは保護しません。

参考文献：

- * Nutanix セキュリティガイド #転送中のデータ暗号化の設定
- * Nutanix KB #パブリックネットワーク上のレプリケーショントラフィックの保護

質問: 16

管理者がログインしてVMテンプレートにOSパッチを適用できる一時的なVMをデプロイする機能はどれですか？

- A. テンプレートからVMを作成する
- B. 設定の更新
- C. ゲストOSの完全アップデート
- D. ゲストOSのアップデート

正解: [\(正解を表示します\)](#)

有効的な**NCP-MCI-6.10**問題集はJPNTTest.com提供され、**NCP-MCI-6.10**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**NCP-MCI-6.10**試験問題集を提供します。JPNTTest.com NCP-MCI-6.10試験問題集はもう更新されました。ここで**NCP-MCI-6.10**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/NCP-MCI-6.10-mondaishu> 176問、30%**ディスカウント**、特別な割引コード：**JPNshiken**」

質問: 17

VMテンプレートを作成する際に利用できるゲストOSのカスタマイズオプションにはどのようなものがありますか？

- A. Sysprep、Cloud-init、カスタムスクリプト、ガイド付きスクリプト
- B. Bash、Powershell
- C. Python、YAML
- D. いいえ、Nutanix テンプレートではゲストのカスタマイズはサポートされていません。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

ゲストOSのカスタマイズオプションを使用すると、管理者はテンプレートからVMをデプロイする際にOS構成を自動化できます。

* オプションA \$Sysprep、Cloud-init、カスタムスクリプト、ガイド付きスクリプト)が正解です。

* Sysprep (Windows用)とCloud-init (Linux用)は、カスタムOS構成を可能にします。

* 高度な自動化にはカスタムスクリプトを使用できます。

* 選択肢BとCは誤りです。

* Bash、PowerShell、Python、およびYAMLは自動化に使用できますが、VMテンプレートのゲストカスタマイズオプションではありません。

* 選択肢Dは誤りです。

* Nutanixテンプレートでは、ゲストのカスタマイズが完全にサポートされています。

参考文献：

* Nutanix VM デプロイメント ガイド # Cloud-Init と Sysprep を使用したゲスト 環境のカスタマイズ

* Nutanix KB#ゲストカスタマイズによるVMデプロイメントの自動化

質問: 18

新しいワークロードを追加した後、全体の稼働期間は365日を下回りましたが、シナリオではクラスターの状態は良好であることが示されています。

なぜ？

A. ストレージランウェイは依然として優れているからです。

B. 新しいワークロードは持続可能であるため。

C. 推奨リソースがあるからです。

D. 目標が1ヶ月だからです。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

インテリジェントオペレーションがワークロードが持続可能であると判断した場合、クラスターの稼働期間が365日を下回っていても、必ずしも問題があるとは限りません。

* オプションB (新しいワークロードは持続可能であるため)が正解です。

* Nutanixはリソースの傾向を分析し、新しいワークロードが予測容量の範囲内であれば、クラスターを正常とマークします。

* オプションA (ストレージランウェイは依然として有効)は誤りです。

ストレージは構成要素の一つですが、CPUとメモリもランウェイ計算に影響します。

* オプションC (推奨リソース)は誤りです。

* 推奨事項は容量の最適化に役立ちますが、クラスターの健全性を定義するものではありません。

* Option D (Target is 1 month) is incorrect:

* The scenario's target window does not impact the actual runway calculation.

References:

* Nutanix Prism Central Guide #Capacity Planning & Runway Analysis

* Nutanix KB #Understanding Capacity Runway and Workload Sustainability

質問: 19

ホスト起動時に、他の仮想マシンよりも先に特定の仮想マシンを起動できるようにする構成オプションはどれですか？

A. 宿主親和性

B. エージェントVM

C. 復旧計画

D. 高可用性

正解: **D** ([コメントを發表する](#))

Nutanixの高可用性 (HA) 機能は、ホスト障害発生後またはホスト起動シーケンス中にVMが再起動される順序を決定します。ドキュメントには次のように記載されています。

高可用性ポリシーで定義されたVM再起動優先度レベルによって、ノードの復旧時やホストの電源投入時に最初に再起動されるVMが決まります。」Nutanix HAでは、管理者が高、中、低などの優先度レベルを割り当てるができます。システムは、優先度の高いVMが他のワークロードよりも先に起動することを保証します。

ホストアフィニティは、仮想マシンを物理ホストに固定するだけで、起動順序を制御するものではありません。エージェント仮想マシンはインフラストラクチャコンポーネントであり、ワークロードの優先順位には関与しません。リカバリプランは、DRワークフローにのみ適用され、通常のホスト再起動動作には適用されません。

したがって、正解は高可用性です。

質問: **20**

Nutanixのどの機能が、リアルタイムのセキュリティ強化とコンプライアンスチェックを提供しますか？

A. Nutanix Calm

B. Nutanix Flow

C. プリズムセキュリティダッシュボード

D. アクロポリスの盾

正解: **C** ([コメントを發表する](#))

質問: **21**

The customer expects to maintain a cluster runway of 9 months. The customer doesn't have a budget for 6 months but they want to add new workloads to the existing cluster.



Based on the exhibit, what is required to meet the customer's budgetary timeframe?

- A. Postpone the start of new workloads.
- B. Delete workloads running on the cluster.
- C. Change the target to 9 months.
- D. Add resources to the cluster.

正解: A ([コメントを发表する](#))

質問: 22

Which Nutanix feature allows users to clone multiple VMs from a single template efficiently?

- A. Fast Clone
- B. Prism Central
- C. Image Service
- D. One-Click Upgrade

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 23

Nutanixのどの機能が、VMデータがVMが実行されているノードと同じノード上に保持されるようにすることでパフォーマンスを向上させるのに役立ちますか？

- A. 複製因子
- B. データ局所性
- C. データ階層化
- D. プリズムインサイト

正解: [\(正解を表示します\)](#)

質問: 24

管理者がハイパーバイザー間（ESXiからAHV）のセットアップ向けにNutanix災害復旧（DR）を構成しているが、DRの場所でゲストVMが正しく復旧しないことがわかった。ハイパーバイザーをまたいだ災害復旧イベントを成功させるために必要なことは何ですか？

- A. デルタディスクを使用する。
- B. クラスタ内のホストにレガシーBIOSブートを展開します。
- C. 生のデバイスマッピングを使用します。
- D. ソースゲストVMにNutanix Guest Tools (NGT)をインストールする必要があります。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

ハイパーバイザー間のDRフェイルオーバー（例ESXiからAHV）を行うには、適切な構成と復旧を確保するために、Nutanix Guest Tools（NGT）をVMにインストールする必要があります。

- * オプションD（ソースゲストVMにNGTをインストールする必要がある）が正解です。
- * NGTは、フェイルオーバー中にVMデバイスとネットワーク設定が正しく再構成されることを保証します。
- * ESXiとAHV間のディスクとドライバの再割り当てを処理します。
- * オプションA（デルタディスクを利用する）は誤りです。
- * デルタディスクはスナップショット最適化に使用され、DRフェイルオーバーには使用されません。
- * オプションB（レガシーBIOSブートの展開）は誤りです。
- * AHVはUEFIブートモードを推奨しており、レガシーBIOSは必須ではありません。
- * オプションC（生のデバイスマッピングを使用する）は誤りです。
- * RDMはVMware固有のものであり、AHVフェイルオーバーシナリオでは使用されません。

参考文献：

- * Nutanix ディザスターリカバリーガイド#クロスハイパーバイザーフェイルオーバーのベストプラクティス
- * Nutanix KB#ESXi から AHV への災害復旧時の VM 互換性の確保

質問: 25

An administrator is trying to configure Metro Availability between Nutanix ESXi-based clusters. However, the Compatible Remote Site screen does not list all required storage containers.

Protection Domain (Metro Availability) ? X

Name Storage Containers **Remote Sites** Failure Handling Schedule Review

Target Sites

Compatible Remote Sites

Remote Site IP Address

auto_cluster_prod_divya_sharma_tac48b18ab2e 10.46.200.167:2020

NUTANIX

Incompatible Remote Sites

Remote Site IP Address Metro Ready Has Storage Container Latency

Previous Cancel Next

Which two reasons could be a cause for this issue? (Choose two.)

- A. Source and destination hardware are from different vendors.
- B. The remote site storage container has compression enabled.
- C. The destination storage container is not empty.

D. Both storage containers must have the same name.

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Metro Availability in Nutanix requires that the primary and secondary storage containers be configured identicallyto ensuredata replication consistency.

- * Option C (The destination storage container is not empty) is correct:
- * Theremote storage container must be emptybefore Metro Availability can be enabled.
- * Existing data can cause conflictsand prevent it from appearing in the "Compatible Remote Sites" list.
- * Option D (Both storage containers must have the same name) is correct:
- * Metro Availability requires thatstorage containers have identical names across clusters.
- * If namesdo not match, thestorage container will not be listed as compatible.
- * Option A is incorrect: Metro Availability works regardless of hardware vendor differences.
- * Option B is incorrect:Compression does not affect compatibilitybut may impact performance.

References:

- * Nutanix Metro Availability Deployment Guide
- * Nutanix Best Practices forConfiguring Remote Sites for Metro Availability
- * Nutanix KB #Troubleshooting Storage Container Issues in Metro Availability

質問: 26

管理者は、圧縮機能を活用して仮想マシンのストレージを最適化する必要があります。現在、仮想マシンの仮想ディスクは、最適化が有効になっていないデフォルトのストレージコンテナに保存されています。

管理者はどのように対応すべきでしょうか？

- A.** vDiskを本番環境のストレージコンテナに移行します。
- B.** 本番環境ストレージコンテナ内にVMを再作成し、データをコピーします。
- C.** VMを本番環境のストレージコンテナに移行します。
- D.** 本番環境ストレージコンテナにvDiskを再作成し、データをコピーします。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

圧縮機能を有効にしたストレージコンテナにvDiskを移動することで、ダウンタイムなしでデータ効率を向上させることができます。

- * オプションA (vDiskの移行)が正解です。
- * vDiskの移行は中断を伴わず、圧縮設定を動的に適用できます。
- * オプションB (VMを再作成する)は誤りです。
- * VMの再構築は不要であり、ダウンタイムの原因となります。
- * オプションC (VMを移行する)は誤りです。
- * VM移行では、vDiskのみが移行されることを保証するのではなく、パフォーマンスに影響を与える可能性があります。
- * オプションD (vDiskの再作成)は誤りです。

この方法は手作業で時間がかかる一方、Nutanixは自動化されたアプローチを提供します。

参考文献：

- * Nutanix ストレージ最適化ガイド#既存の仮想ディスクでの圧縮の有効化
- * Nutanix KB#最適化のためにストレージコンテナ間でvDiskを移行する

質問: 27

An administrator is trying to configure Metro Availability between Nutanix ESXi-based clusters. However, theCompatible Remote Sitescreen does not list all required storage containers.

Which two reasons could be a cause for this issue? (Choose two.)

- A.** Both storage containers must have the same name.
- B.** The remote site storage container has compression enabled.
- C.** The destination storage container is not empty.
- D.** Source and destination hardware are from different vendors.

正解: [\(正解を表示します\)](#)

質問: 28

An administrator wants to enable application discovery on a Nutanix cluster to monitor applications.

An X-Large Prism Central instance is already configured and meets the licensing, CPU, and memory requirements.

Which two other prerequisites must be met before enabling application discovery? (Choose two.)

- A.** Sufficient Prism Central VM resources
- B.** Internet connection
- C.** API key and key ID
- D.** Network Controller is enabled

正解: **B,D** [\(コメントを発表する\)](#)

Nutanix Application Discovery relies on a combination of Prism Central services and in-guest sensors that collect application metadata, communication patterns, and dependency maps. The internal documentation lists these specific prerequisites before Application Discovery can be enabled:

"Prism Central must have access to the Internet for sensor downloads, signature updates, and metadata service communication."Application Discovery uses cloud-based metadata to identify applications and services.

Without Internet access, Prism Central cannot retrieve application profiles, updated signatures, and dependency mapping definitions.

「VM間のフローレベルの検査と通信追跡を可能にするには、ネットワークコントローラサービスを有効にする必要があります。」アプリケーション検出は、Nutanix Flowのネットワークコントローラと直接統合してトラフィックフローを監視します。これは、依存関係マッピングに必要です。ネットワークコントローラが有効になっていない場合、Prism Centralはワークロード間のトラフィックを監視または分析できません。ドキュメントには、アプリケーション検出を有効にするためにAPIキーを生成する必要はなく、質問に記載されているように、十分なPrism Centralリソースが既に存在することを前提としていることが明記されています。したがって、必要な前提条件はインターネット接続とネットワークコントローラの有効化です。

質問: 29

管理者は次のようなアラートを受け取ります。

「クラスター上のコンテナのストレージ容量が約1日で不足します。」

クラスターにはまだ十分な空き容量があります。

クラスターにはまだ空き容量があるにもかかわらず、コンテナの容量が不足する原因となっている構成設定はどれですか？

- A.** 広告されている容量が低すぎます。
- B.** 複製係数が高すぎます。
- C.** 予約容量の設定が高すぎます。
- D.** 圧縮は低めに設定されています。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Nutanixのドキュメントによると、ストレージコンテナの予約容量は、そのコンテナ専用の物理スペースを一定量確保することを意味します。内部的な説明は以下のとおりです。

「予約容量とは、コンテナが確実に使用できるようストレージプールから確保された領域のことです。コンテナの予約容量が枯渇に近づくと、クラスタ全体に十分な空き容量があってもアラートが発生します。」これは、物理的なクラスタ容量が十分であっても、コンテナ自体が予約容量の上限に達し、容量不足の予測が発生する可能性があることを意味します。広告容量は使用上限を決定しますが、この動作を引き起こすものではありません。レプリケーション係数は総使用量に影響しますが、クラスタに問題がない場合にコンテナのみが枯渇する理由を説明することはできません。圧縮レベルはデータ削減に影響しますが、容量アラートメカニズムには影響しません。したがって、アラートの原因は、予約容量の値が大きすぎることにあります。

質問: 30

仮想マシン (VM) またはボリュームグループ (VG) をストレージポリシーに関連付けるにはどうすればよいですか？

- A. ストレージポリシーをVMまたはVGに直接割り当てます。
- B. VMまたはVGをストレージポリシーに直接割り当てます。
- C. VM または VG をストレージ ポリシーに割り当てられたストレージ コンテナに移行します。
- D. VM または VG をストレージ ポリシーと同じカテゴリに割り当てます。

正解: (正解を表示します)

Nutanixのストレージポリシーはカテゴリを通じて適用され、ポリシーに基づいた自動化と強制が可能になります。

- * オプションD (VMまたはVGをストレージポリシーと同じカテゴリに割り当てる) が正解です。
- * NutanixはVMカテゴリに基づいてストレージポリシーを適用し、ポリシー適用における柔軟性を実現します。
- * オプションAは誤りです。
- * ストレージポリシーは、VMまたはVGレベルで直接割り当てられるのではなく、カテゴリを通じて適用されます。
- * 選択肢Bは誤りです。
- * ポリシーは、個々の VM/VG に直接割り当てるのではなく、カテゴリに割り当てる必要があります。
- * 選択肢Cは誤りです。
- * ストレージコンテナへの移行では、ストレージポリシーは自動的に適用されません。

参考文献：

Nutanix ストレージ管理ガイド#ポリシーベースのストレージ管理におけるカテゴリの使用 Nutanix KB#VM へのストレージポリシー適用に関するベストプラクティス

質問: 31

管理者は、新たなプロジェクトに関連した成長計画を立てたいと考えている。

ClusterXYZという名前のクラスターに、新しいプロジェクトワークロード要件が追加されました。

中規模SQLサーバー2台

16GB RAM、4 vCPU、100GBストレージを搭載した10台の仮想マシン

適切なキャパシティランウェイ予測を提供するために、キャパシティプランニングシナリオに追加すべき追加情報項目はどれですか？ 2つ選択してください。）

- A. 需要の変化率
- B. 既存のクラスタハードウェア仕様
- C. 作業量が追加される日付
- D. 新規ワークロードのストレージ圧縮率

正解: (正解を表示します)

有効的な**NCP-MCI-6.10**問題集はJPNTest.com提供され、**NCP-MCI-6.10**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**NCP-MCI-6.10**試験問題集を提供します。JPNTest.com NCP-MCI-6.10試験問題集はもう更新されました。ここで**NCP-MCI-6.10**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/NCP-MCI-6.10-mondaishu> 176問、30%ディスカウント、特別な割引コード：**JPNshiken**」

質問: 32

ストレージポリシーは、どのようなストレージ属性を管理しますか？

- A. 保管容器と容量グループ

- B. 複製係数と暗号化
- C. 共有とオブジェクトストア
- D. データ保護とセキュリティ

正解: B (コメントを发表する)

Nutanixのストレージポリシーを使用すると、管理者はストレージコンテナレベルでデータ保護とパフォーマンスの設定を構成できます。

- * レプリケーションファクター (RF)は、耐障害性のためにノード間で保存されるデータのコピー数を定義します。
- * 暗号化により、Nutanixネイティブの暗号化方式によって保存データが保護されます。
- * オプションA (ストレージコンテナとボリュームグループ)は、ストレージの構成に関するものであり、ポリシーに関するものではありません。
- * オプションC (共有とオブジェクトストア) は、ファイルおよびオブジェクトストレージ サービスに適用され、VM ストレージ ポリシーには適用されません。
- * オプションD (データ保護とセキュリティ)は広範な用語であり、具体的なポリシー属性を定義していません。

参考文献：

- * Nutanix Prism Element #ストレージポリシーとレプリケーション係数 (RF)
- * Nutanixバイブル #ストレージファブリックとデータ回復力
- * Nutanix KB #ストレージポリシーでの暗号化の有効化

質問: 33

An administrator has two identical clusters managed by separate Prism Central instances. The guest VMs have pass-through GPUs. A scheduled maintenance is set for one of the clusters.

Which option would migrate VMs minimizing downtime?

- A. Run a Recovery Plan planned failover.
- B. Use Cross-Cluster Live Migration.
- C. Perform a Nutanix Move migration plan.
- D. Migrate Asynchronous Protection Domains

正解: B (コメントを发表する)

The Nutanix ECA course covers migration options for VMs in multi-cluster environments, particularly when minimizing downtime is critical, such as during scheduled maintenance. The scenario involves two identical clusters with guest VMs using pass-through GPUs, managed by separate Prism Central instances, requiring a migration method that ensures minimal disruption.

Extract from Nutanix Enterprise Cloud Administration (ECA) Course Documents:

Module: VM Management, Section: Cross-Cluster Live Migration"Cross-Cluster Live Migration allows administrators to migrate VMs between clusters managed by different Prism Central instances with minimal downtime. This feature supports live migration of VMs with pass-through GPUs, ensuring continuous operation during maintenance activities." Module: Cluster Management, Section: Migration Strategies"For scenarios requiring minimal downtime, such as planned maintenance, Cross-Cluster Live Migration is the preferred method. It enables seamless VM migration across clusters, even those managed by separate Prism Central instances, while maintaining VM availability." Explanation of Options:

A). Run a Recovery Plan planned failoverThis is incorrect. A Recovery Plan planned failover is part of Nutanix's disaster recovery (DR) solution, used to execute failover for Protection Domains in scenarios like site failure. It is not designed for routine maintenance migrations and may involve downtime, especially for VMs with pass-through GPUs, as failover requires VM restart on the target cluster. The ECA course states:" Recovery Plans are used for DR failover, not for live migrations during maintenance, and may result in downtime." B). Use Cross-Cluster Live MigrationThis is the correct answer. Cross-Cluster Live Migration, introduced in later AOS versions, allows VMs to be migrated between clusters, even those managed by different Prism Central instances, with minimal downtime. The ECA course confirms that this feature supports VMs with pass-through GPUs, as the migration process preserves VM state and connectivity. This method is ideal for planned maintenance, ensuring VMs remain operational.

Supporting Extract:"Cross-Cluster Live Migration minimizes downtime by transferring VM state and data live, supporting complex configurations like pass-through GPUs, making it suitable for maintenance scenarios." C). Perform a Nutanix Move migration planThis is incorrect. Nutanix Move is a tool for migrating VMs from non-Nutanix environments (e.g., VMware or Hyper-V) to a Nutanix cluster, not for migrations between Nutanix clusters. It is not optimized for live migrations within a Nutanix environment and may involve downtime. The ECA course notes:"Nutanix Move is designed for external-to-Nutanix migrations, not for intra- Nutanix cluster migrations, and is not suitable for minimizing downtime." D). Migrate Asynchronous Protection DomainsThis is incorrect. Migrating Asynchronous Protection Domains involves replicating snapshots to a remote cluster for DR purposes, not live VM

migration. This process is asynchronous, involves downtime during failover, and is not suitable for maintenance scenarios requiring minimal disruption. The ECA course clarifies:"Asynchronous Protection Domains are used for DR replication, not for live VM migration, and require VM restart during failover." Additional Context from ECA:

Cross-Cluster Live Migration: This feature leverages Nutanix's hypervisor-agnostic migration capabilities, ensuring that VMs with pass-through GPUs are migrated seamlessly. The process involves copying VM memory and state while keeping the VM running, minimizing downtime to seconds or less.

Maintenance Scenario: For scheduled maintenance, Cross-Cluster Live Migration ensures that VMs remain available, which is critical for GPU-intensive workloads that cannot tolerate extended downtime.

Supporting Reference from Web Results:

Nutanixサポートポータル (<https://portal.nutanix.com>)は、ECAのドキュメントと以下の内容で一致しています。クロス・クラスター・ライブ・マイグレーションは、パススルーGPUを搭載したクラスターを含む、クラスター間でのVMのライブマイグレーションをサポートし、メンテナンス作業におけるダウンタイムを最小限に抑えます。」

質問: 34

An administrator is configuring a protection domain for business critical applications, including SQL, Oracle, and Exchange. The administrator needs to evaluate the requirements and limitations for application-consistent snapshots.

What action should the administrator take while configuring application-consistent snapshots?

- A.** Configure one consistency group for all VMs comprising an App.
- B.** Configure one consistency group for each VM.
- C.** Select application consistent snapshot checkbox in consistency group settings only.
- D.** Ensure that Windows VMs have in-guest mounted VHDX disks.

正解: ([正解を表示します](#))

When configuring application-consistent snapshots in a Nutanix protection domain for applications such as SQL, Oracle, and Exchange, it is critical to group all related VMs in the same consistency group within the protection domain. This ensures that the snapshot captures a consistent state of the entire application stack.

From theNutanix Enterprise Cloud Administration (ECA)course materials:

"A consistency group ensures that snapshots across multiple VMs are taken at the same time, maintaining application consistency for distributed applications. This is especially important for multi-tiered applications like SQL, Oracle, and Exchange, where data integrity depends on coordinated snapshot creation." Additionally:

"For application-consistent snapshots, leverage guest tools or volume shadow copy services (VSS) in Windows to quiesce applications, and configure the consistency group to include all relevant VMs." By creating one consistency group for all VMs comprising an application, the administrator ensures that snapshots represent a consistent state across the application components.

質問: 35

添付資料を参照してください。



管理者は、図に示すようなメモリクラスタのランウェイ図をPrism Centralで確認しています。この環境には、以下の構成を持つ3台のホストがあります。

CPU :Intel Xeon Gold 2基 8コア、2.6GHz)

RAM :ホストあたり256GB

ストレージ :SSDとHDD

インテリジェントオペレーション機能は1か月間有効になっていますが、それ以上の設定変更は行われていません。

点線の赤い線は何を意味しますか？

- A. これは、クラスタ構成オプションに基づく使用可能な容量です。
- B. これは、手動で設定できるデフォルトのトレンド分析静的しきい値です。
- C. これは、管理者が仮想マシンに割り当てることができる最大メモリです。
- D. これは、現在実行中の仮想マシンの計算されたメモリ超過制限です。

正解: D ([コメントを发表する](#))

管理者は、仮想マシンのパフォーマンスに関する苦情を受け取りました。

図に示されている仮想マシンのCPU準備時間データを確認した後、管理者は問題をさらに診断するためにどのような手順を踏むべきでしょうか？

- A. VMメモリのオーバーサブスクリプションを有効にする
- B. ホストCPU使用率を確認する
- C. クラスタSSD容量を評価する
- D. 各CVMに割り当てられているCPUの数を確認します。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Nutanixのパフォーマンストラブルシューティングガイドラインでは、CPUレディタイムをCPU競合の重要な指標として挙げています。ドキュメントには次のように説明されています。

「CPU準備時間が長いということは、ホストCPUの飽和状態またはCPUの過剰割り当てにより、vCPUが物理コアへの割り当て待ち状態になっていることを示しています。」CPU準備時間は、ストレージの問題やCVMのサイジングとは関係ありません。むしろ、ハイパーバイザーがVMのCPU操作を迅速にスケジュールできないことを示しています。

内部抜粋には、次の診断手順が明確に記載されています。

「CPU準備完了メトリックが上昇した場合、まず最初に物理ホストのCPU使用率を確認し、ホストが過負荷状態にあるか、CPU使用率が高い状態にあるかを確認します。」ホストが過負荷状態にある場合は、VMを複数のホストに分散したり、過大なVMのvCPU数を減らしたり、コンピューティングリソースを追加したりすることで対処します。

他の選択肢は無関係です。

* メモリの過剰割り当ては、CPUのレディタイムとは無関係です。

* SSDの容量はストレージの遅延に影響しますが、CPUのスケジューリングには影響しません。

* CVMのCPU数はVMのCPU準備時間に影響を与えません。CVMリソースの設定ミスはクラスタサービスに影響し、ゲストVMのスケジューリングには影響しません。

したがって、ホストCPUの使用率を調査することが、適切な次のステップである。

質問: **37**

Nutanixのどの製品が、クラウド間でのアプリケーション展開の自動化に使用されていますか？

- A. Xiフレーム
- B. 落ち着き
- C. プリズムセントラル
- D. 流れ

正解: [\(正解を表示します\)](#)

質問: **38**

Which Nutanix feature predicts future resource utilization and capacity needs?

- A. Prism Pro Capacity Planning
- B. Nutanix Move
- C. Xi IoT
- D. Nutanix Beam

正解: [\(正解を表示します\)](#)

質問: **39**

An administrator wants to live-migrate a vGPU-enabled VM from one host to another within the same cluster.

What requirements must be met before initiating the migration?

- A. The host affinity for the VM must be to a host.
- B. The VM must be configured as an agent VM.

- C.** The vGPU profile needs to be changed.
- D.** The target host has sufficient resources to support the VM.

正解: **D** ([コメントを發表する](#))

The Nutanix AHV virtualization guide explains that vGPU-enabled VMs can be live migrated only when the destination host contains compatible GPU hardware and has available vGPU capacity matching the profile assigned to the VM. The documentation states that the VM must have "adequate and equivalent GPU resources on the target host" for migration to proceed. Host affinity is a limiting factor and not a requirement. Agent VMs are not designed to be migrated. Changing the vGPU profile is not necessary as long as the target host supports the currently assigned profile. Therefore, ensuring the destination host has sufficient compatible resources is the required condition.

質問: **40**

An administrator needs to compare the performance of two VMs that are running on separate Nutanix clusters. When creating an Analysis chart in Prism Central Intelligent Operations, the administrator discovers that it is not possible to add VM metrics for IOPS and CPU utilization to the same chart. How should the administrator resolve this issue?

- A.** Create an Entity chart instead of a Metric chart.
- B.** Migrate one of the VMs so that both VMs are running on the same cluster.
- C.** Create separate charts for metrics with different units of measurement
- D.** Ensure that both VMs have the same number of vCPUs provisioned.

正解: ([正解を表示します](#))

質問: **41**

添付資料を参照してください。



管理者は、図に示すようなメモリクラスタのランウェイ図をPrism Centralで確認しています。この環境には、以下の構成を持つ3台のホストがあります。

* CPU: Intel Xeon Gold 2基 (8コア、2.6GHz)

* RAM: ホストあたり256GB

* ストレージ :SSDとHDD

インテリジェントオペレーション機能は1か月間有効になっていますが、それ以上の設定変更は行われていません。

点線の赤い線は何を意味しますか？

A. これは、手動で設定できるデフォルトのトレンド分析静的しきい値です。

B. これは、管理者が仮想マシンに割り当てることができる最大メモリ容量です。

C. これは、現在実行中の仮想マシンの計算されたメモリ超過制限です。

D. クラスタ構成オプションに基づく使用可能な容量です。

正解: D ([コメントを发表する](#))

Prism Central Memory Cluster Runway Diagramは、メモリ使用傾向に関する洞察を提供し、リソースが枯渇する前にクラスタがワークロードをどれくらいの期間維持できるかを予測します。

* 青色の実線部分は、時間の経過に伴う実際のメモリ使用量を表しています。

* 点線の赤い線は、クラスタの現在の構成に基づいた実効メモリ容量の上限を表しています。

点線の赤線を分析する

点線の赤い線には「有効容量 503.22 GiB」と表示されており、これは次のことを意味します。

* これは、ハイパーバイザのオーバーヘッド、冗長性設定、およびフェイルオーバー容量を考慮した後の、クラスタ内の使用可能なメモリ容量の合計です。

* この値は厳密な制限値ではなく、パフォーマンスの問題が発生する前に使用可能なメモリ容量の目安です。

選択肢の評価

#(A) これは、手動で設定できるデフォルトのトレンド分析静的しきい値です。(誤り)

* 点線の赤い線は、管理者が手動で設定できる静的なしきい値ではありません。

* Prismにおけるトレンド分析は動的であり、ワークロードの履歴と予測に基づいています。

B) これは、管理者が仮想マシンに割り当てることができる最大メモリ容量です。(誤り)

* メモリのオーバーコミットが有効になっている場合、管理者は点線の赤い線を超えてメモリをオーバーサブスクライブできます。

ただし、有効容量を超えてメモリを過剰に割り当てると、パフォーマンスに影響を与える可能性があります。

#(C) これは、現在実行中の仮想マシンのメモリ超過割り当て制限の計算値です。(誤り)

※点線の赤線は、定員超過の上限を示すものではありません。

* メモリの過剰割り当ては、ハイパーバイザのメモリバレーニング、圧縮、およびスワッピングのメカニズムに依存しますが、これらはここでは直接示されていません。

D) これは、クラスタ構成オプションに基づいた使用可能な容量です。(正解)

* 点線の赤線「503.22 GiB」は、システムオーバーヘッドを考慮した後の、クラスターで実際に使用可能なメモリ容量を表しています。

* この値は以下によって決定されます。

* 合計物理メモリ容量 (ホストあたり256GB × 3ホスト = 768GB)

* ハイパーバイザーとシステムプロセス用に予約されたメモリ

* クラスターのフェイルオーバーと冗長性の設定

* インテリジェントオペレーション能力分析

マルチクラウドインフラストラクチャのリファレンスとベストプラクティス

* Prism Centralの「Runway」機能は、メモリ、CPU、ストレージ容量に関するAI駆動型のトレンド分析を提供します。

* 実効容量制限は、リソースが危機的な状況になる前に、管理者が積極的なスケーリングの意思決定を行うのに役立ちます。

* メモリの余裕を増やすために、管理者は以下を実行できます。

* VMメモリ割り当てを最適化します。

* クラスターにホストを追加します。

* メモリ重複排除と圧縮を有効にする（利用可能な場合）。

質問: 42

After upgrading Prism Central from PC2022.1 to PC2024.1, an administrator is unable to log in with their IAM domain account.

What is the first troubleshooting step the administrator should take?

A. Ping the Domain Controller from the CVM.

B. Ensure port 9441 is open in the firewall.

C. Validate the trusted signing certificate of the organization.

D. Log in with a local admin account.

正解: [\(正解を表示します\)](#)

After a Prism Central upgrade, IAM authentication settings may require reconfiguration.

* Option D (Log in with a local admin account) is correct:

* If IAM authentication fails, the local admin account must be used to check domain settings.

- * Option A (Ping the Domain Controller) is incorrect:
- * Network connectivity is important, but the issue is likely related to IAM settings, not network reachability.
- * Option B (Check firewall port 9441) is incorrect:
- * Port 9441 is used for SSO authentication, but port issues usually result in login delays, not complete failures.
- * Option C (Validate signing certificate) is incorrect:
- * While certificates can cause issues, local admin login should always work.

References:

- * Nutanix KB #Troubleshooting IAM Login Issues After a Prism Central Upgrade
- * Nutanix Documentation #Managing User Authentication and IAM Integration

質問: 43

ホストメモリをアップグレードする際に、最初に実行すべきタスクはどれですか？

- A. 帯域外管理インターフェースを使用してホストを正常に停止します。
- B. クラスターからノードを削除します。
- C. AHV コマンドラインインターフェースから `$shutdown -h now` を実行します。
- D. ノードをメンテナンスモードにする

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Nutanix ECA コースでは、クラスターの安定性とデータ可用性を確保するために、ホストメモリの追加など、ハードウェアのアップグレードを実行するための詳細な手順を解説しています。ホストメモリのアップグレードを行うには、実行中の仮想マシンやクラスターの動作を妨げないよう、ノードを安全に準備する必要があります。

Nutanix エンタープライズクラウド管理 (ECA) コース資料からの抜粋:

* モジュール: クラスター管理、セクション: ハードウェアのアップグレード
ホストメモリの追加などのハードウェアのアップグレードを実行する前に、ノードをメンテナンスモードにする必要があります。これにより、すべての仮想マシンが他のノードに移行され、ホストがクラスター操作から安全に隔離されます。」

* モジュール: ホストメンテナンス、セクション: メンテナンスモード
ノードをメンテナンスモードにすることは、ハードウェアアップグレードの最初のステップです。メンテナンスモードでは、すべての VM が他のノードに移行され、コントローラ VM (CVM) が停止され、ホストが安全にシャットダウンまたはハードウェア変更できるように準備されます。」オプションの説明:

* A. 帯域外管理インターフェイスを使用してホストを正常に停止する
これは誤りです。メンテナンスモードに入らずに帯域外管理インターフェイス (IPMI や iLO など) を使用してホストを停止すると、実行中の VM やクラスターサービスが中断される可能性があります。ECA コースでは、メンテナンスモードに入らずにホストをシャットダウンすると、VM が移行されないため、VM のクラッシュやデータの利用不能が発生する可能性があります」と警告しています。

* B. クラスターからノードを削除する
これは誤りです。クラスターからノードを削除すると、クラスターのメタデータとストレージプールからノードが切り離され、再参加するにはイメージの再作成が必要になります。メモリの追加などの一時的なハードウェアアップグレードには適していません。ECA コースでは、ハードウェアアップグレードにノードの削除は必要なく、クラスター構成を混乱させるため避けるべきです」と明記されています。

* C. AHV コマンドラインインターフェースから `$shutdown -h now` を実行する
これは誤りです。メンテナンスモードに入らずに AHV ホストで `shutdown -h now` を実行すると、ホストが突然停止し、VM がクラッシュしたり、クラスターの動作が中断されたりする可能性があります。ECA コースの注記には、メンテナンスモードに入らずに CLI 経由でホストを直接シャットダウンすると、データ損失やサービスの中断のリスクがあります」とあります。

* D. ノードをメンテナンスモードにする
これが正解です。ノードをメンテナンスモードにすることは、ハードウェアアップグレードの最初のステップです。メンテナンスモードにすることで、すべての仮想マシンが安全に他のノードに移行され、CVM が停止し、ホストがシャットダウンまたはハードウェア変更の準備をされます。ECA コースでは、メンテナンスモードがアップグレード中のクラスターの安定性を確保する上で重要であることを強調しています。

* サポート抜粋: ホストメモリをアップグレードするには、Prism Element または CLI コマンド `ncli host maintenance_mode` を使用してノードをメンテナンスモードにします。これにより、VM の安全な移行とホストの分離が保証されます。」ECA からの追加コンテキスト:

* メンテナンスモードのプロセス: Prism Element では、メンテナンスモードは [ハードウェア] > [ホスト] > [メンテナンスモードに入る] で有効にできます。このプロセスでは、ライブマイグレーションを使用して VM を自動的に移行し、CVM を停止してホストを隔離します。AHV の場合、CLI コマンドは `ncli host maintenance_mode id=<host_id> enable=true` です。

* メモリ増設 :メンテナンスモードに入った後、ホストを安全に電源オフにしてメモリを追加し、その後電源を再びオンにしてメンテナンスモードを終了することができます。

ウェブ検索結果からの参考文献：

Nutanix Bible (https://www.nutanix.com/go/the-nutanix-bible)には、メンテナンスモードはホストハードウェアのアップグレードに必要な最初のステップであり、メモリのアップグレードなどの変更を行う前にVMが移行され、ノードが隔離されることを保証する」と記載されています。

質問: **44**

An administrator want to create a VM with memory overcommit features enabled in Nutanix environment.

Which statement best describes how the administrator will perform this VM creation?

- A.** Memory overcommit can only be updated using the Prism Central console.
- B.** Memory overcommit can be enabled while creating a VM using Prism Element Web Console.
- C.** Memory overcommit can not be enabled for VM from the Prism Central console.
- D.** Memory overcommit can only be updated using the Prism Element Web Console once VM created.

正解: **A** ([コメントを発表する](#))

質問: **45**

Refer to the Exhibit:

An administrator needs to create two virtual machines: VM4 and VM5 that leverage the memory over-commit feature.

Once VM4 is created and running, the administrator notices that it uses only 28GB of RAM.

What will be the maximum RAM that can be allocated to VM5 so that it can be powered on?

- A.** 32GB
- B.** 4GB
- C.** 8GB
- D.** 16GB

正解: ([正解を表示します](#))

質問: **46**

Upon reaching the maximum instances of retained reports, what occurs?

- A.** New reporting is delayed.
- B.** Reporting failure is reported.
- C.** Manual deletion is required.
- D.** Oldest report is deleted

正解: ([正解を表示します](#))

When the maximum instance count of retained reports is reached, Nutanix automatically deletes the oldest report to accommodate the new one.

Nutanix Enterprise Cloud Administration (ECA) コースの教材より：

「ストレージとパフォーマンスの効率性を確保するため、Nutanixのレポート機能は保存できるレポートの数を制限しています。この上限に達すると、新しいレポートのためのスペースを確保するために、最も古いレポートインスタンスが自動的に削除されます。」

有効的な**NCP-MCI-6.10**問題集はJPNTest.com提供され、**NCP-MCI-6.10**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**NCP-MCI-6.10**試験問題集を提供します。JPNTest.com NCP-MCI-6.10試験問題集はもう更新されました。ここで**NCP-MCI-6.10**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/NCP-MCI-6.10-mondaishu> 176問、30%ディスカウント、特別な割引コード：**JPNshiken**」

質問: 47

管理者は、ハイブリッドSSD/HDDクラスタに関してPrismでアラートを確認した。

「ストレージプールのSSD使用率が常に75%を超えています。」

この症状がもたらす潜在的な影響は何ですか？

- A. クラスタはSSDディスクの障害に耐えることができません。
- B. クラスタのメタデータの保存容量がほぼ不足している可能性があります。
- C. クラスタが読み取り専用状態になる危険性があります。
- D. クラスタ内の平均I/Oレイテンシが増加する可能性があります。

正解: (正解を表示します)

ハイブリッドクラスタにおいてSSDの使用率が高い場合、新規書き込みがHDDにまで及ぶ可能性があるため、I/Oレイテンシが増加し、全体的なパフォーマンスが低下する可能性があります。

* オプションD クラスタ内の平均I/Oレイテンシが増加する可能性がある)が正解です。

* SSDの使用率が75%を超えると、データ階層化は低速なHDDに移行し、レイテンシが増加します。

* オプションAは誤りです。

* SSDの障害は冗長性ポリシー RF2/RF3)によって管理され、高い使用率は障害処理に影響を与えません。

* 選択肢Bは誤りです。

メタデータは別に保存されるため、SSDの使用率が高いからといってメタデータが危険にさらされるわけではありません。

* 選択肢Cは誤りです。

* SSDの使用率が高いからといって、クラスタが読み取り専用モードになるわけではありません。単にパフォーマンスが低下するだけです。

参考文献：

Nutanix ストレージパフォーマンスガイド#SSD 階層化とパフォーマンス管理 Nutanix KB#ハイブリッドクラスタにおける高 SSD 使用率の管理

質問: 48

An administrator is trying to delete a protected snapshot but is unable to do so.

What is the most likely cause?

- A. Ransomware has encrypted the snapshot
- B. The snapshot has been corrupted
- C. There is an active recovery occurring at that time
- D. There is an approval policy that was denied

正解: C (コメントを発表する)

Nutanix Data Protection enforces strict snapshot lifecycle controls to ensure recovery integrity. The system prevents deletion of any snapshot that is actively referenced by a running operation. The documentation states:

"Snapshots that are part of an active recovery or restore workflow cannot be deleted until the operation completes, as they are required to maintain data consistency and restore points." This includes DR failover tests, restorations, or live recovery workflows. Corrupted snapshots do not cause deletion failure; the system can still delete a corrupted snapshot unless it's attached to an active workflow.

Ransomware affects guest data, not the snapshot metadata in Prism. Approval policies do not block snapshot deletion unless tied to automation policies, which is rare and would produce a different error.

Therefore, active recovery operations are the most common and most accurate cause when deletion is blocked.

質問: 49

LCMの更新を実行する前に満たすべき前提条件はどれですか？

- A. AOSをアップデート
- B. 基盤のアップデート
- C. AHVをアップデート
- D. BIOSをアップデートする

正解: [\(正解を表示します\)](#)

NutanixクラスタでLCM (ライフサイクルマネージャ) アップデートを実行する前に、AOS (アクロポリスオペレーティングシステム) が必須または推奨バージョンにアップデートされていることを確認することが不可欠です。AOSアップデートには、基盤となる機能強化、セキュリティパッチ、互換性の向上などが含まれており、これらはLCMアップデートを正常に実行するために非常に重要です。

Nutanix Enterprise Cloud Administration (ECA) コースの教材より：

「LCM のアップデートは、基盤となる AOS のバージョンに依存します。LCM を介してハードウェアまたはソフトウェアのアップデートを実行する前に、管理者はクラスターがサポートされている AOS バージョンを実行していることを確認する必要があります。この手順により互換性が確保され、AOS とアップデート コンポーネント間の依存関係から発生する可能性のある問題が防止されます。」さらに、次の点も考慮する必要があります。

「BIOS、ファームウェア、ハイパーバイザーなどのコンポーネントに対する必要なLCMアップデートをサポートするバージョンにクラスターを移行するには、まずAOSのアップグレードを実行する必要があります。これにより、管理スタックが最新の機能とセキュリティ強化に対応します。」したがって、LCMアップデートを実行する前にAOSをアップデートすることは、クラスターライフサイクル管理プロセス全体の安定性とサポート性を確保するための必須の前提条件です。

質問: 50

An administrator migrated a physical MySQL database from a legacy 3-tier environment to a Nutanix cluster.

After migration, the administrator finds that at peak load, the number of IOPS is lower than expected, and latency is higher.

Which two steps should the administrator take to improve performance? (Choose two.)

- A. Ensure that the SQL data vDisks are thick provisioned.
- B. Create additional vDisks for SQL data.
- C. Use LVM to stripe the SQL data across multiple vDisks.
- D. Ensure that the SQL data vDisks are thin provisioned.

正解: [\(正解を表示します\)](#)

For high-performance databases like MySQL, optimizing storage access is critical.

- * Option B (Create additional vDisks for SQL data) is correct:
- * Multiple vDisks allow better parallelism in Nutanix DSF (Distributed Storage Fabric), improving IOPS.
- * Option C (Use LVM to stripe SQL data across multiple vDisks) is correct:
- * Striping across multiple disks distributes the load, reducing latency.
- * Option A (Thick provisioned vDisks) is incorrect:
- * Nutanix always provisions vDisks thinly, and thick provisioning does not improve IOPS.
- * Option D (Thin provisioned vDisks) is incorrect:
- * All Nutanix vDisks are thin-provisioned by default.

References:

- * Nutanix Bible #Optimizing SQL Performance on Nutanix
- * Nutanix KB #Best Practices for Running MySQL on Nutanix

質問: 51

Which hypervisors are officially supported by Nutanix for running virtualized workloads?

- A. OpenStack, Proxmox, Nutanix AHV
- B. Red Hat Enterprise Virtualization, VMware ESXi, KVM
- C. Citrix XenServer, KVM, Nutanix AHV
- D. VMware ESXi, Microsoft Hyper-V, Nutanix AHV

正解: [\(正解を表示します\)](#)

質問: 52

An administrator needs to modify anAHV VMto supporta large number of concurrent network connections.

The VM has:

- * 4 vCPUs
- * 20 GB RAM
- * OS: Microsoft Windows Server 2022

Which modification can improve network performance for network I/O-intensive applications?

- A. vCPUを追加します。
- B. AHVターボテクノロジーを有効にする。
- C. RSS VirtIO-Net マルチキューを有効にする。
- D. RAMを追加します。

正解: C [\(コメントを発表する\)](#)

受信側スケリング (RSS) VirtIO-Netマルチキューは、ネットワーク処理を複数のCPUコアに分散することで、ネットワークパフォーマンスを向上させます。

- * オプションC (RSS VirtIO-Netマルチキューを有効にする)が正しいです。
- * この設定により、複数のキューでネットワークパケットを処理できるようになるため、CPUのボトルネックが軽減されます。
- * 高スループットのネットワークアプリケーションには不可欠です。
- * オプションA (vCPUを追加する)は誤りです。
- CPUリソースは重要ですが、RSSを有効にしないと、追加のvCPUを使用してもネットワークトラフィックの分散は最適化されません。
- * オプションB (AHVターボテクノロジーを有効にする)は誤りです。
- * AHV TurboはディスクI/Oを改善しますが、ネットワークI/Oは改善しません。
- * オプションD (RAMを追加する)は誤りです。
- * RAMはネットワークパフォーマンスに直接影響を与えません。

参考文献：

Nutanix AHV ベストプラクティスガイド # RSS マルチキューによるネットワークパフォーマンスの最適化 Nutanix KB # 高性能アプリケーション向けマルチキューの有効化

質問: 53

管理者は、新たに登録されたAHVクラスターのベースライン容量ランウェイを計算するよう依頼されました。

クラスターは16日間稼働しているが、滑走路の予測は表示されていない。

滑走路の容量予測が表示されないのはなぜですか？

- A. キャパシティプランニングには、少なくとも21日分のデータが必要です。
- B. キャパシティプランニングには、少なくとも6か月分のデータが必要です。
- C. キャパシティプランニングには、少なくとも30日分のデータが必要です。
- D. キャパシティプランニングには、少なくとも3か月分のデータが必要です。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

質問: 54

LCMにダークサイト展開を使用している管理者が、最新のBIOSにアップグレードしようとしています。
インベントリスキャンを完了した後、管理者はアップグレード可能なBIOSバージョンが期待どおりに表示されない。
最新のBIOSが表示されない最も可能性の高い理由は何ですか？

- A. まずAOSをアップグレードする必要があります。
- B. 最新の互換性バンドルはアップロードされていません。
- C. まずBMCのバージョンをアップグレードする必要があります。
- D. ダークサイトのウェブサーバーにアクセスできません。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

In a dark site deployment, LCM does not automatically fetch updates from the internet. The administrator must manually upload compatibility bundles.

- * Option B (The latest compatibility bundle has not been uploaded) is correct:
- * The compatibility bundle contains firmware mappings, allowing LCM to detect the correct BIOS version.
- * Option A is incorrect:
- * AOS does not need to be upgraded first for a BIOS update.
- * Option C is incorrect:
- * The BMC firmware does not always need updating before BIOS updates.
- * Option D is incorrect:
- * In a dark site deployment, LCM does not rely on an internet connection, so webserver access is not required.

References:

- * Nutanix LCM Guide#Using Compatibility Bundles in Dark Sites
- * Nutanix KB#Troubleshooting Firmware Updates in Dark Site Deployments

質問: 55

管理者は、既に承認済みの保護されたスナップショットを削除するための承認要求を繰り返し受け取っている。
考えられる原因は何ですか？

- A. SMTPサーバーにエラーが発生しました。
- B. ポリシーエンジンは実装されていません。
- C. 管理者は承認ポリシーの承認者です。
- D. 承認ポリシーには複数の承認者がいます。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Nutanix Prism Centralでは、管理者が承認ポリシーの承認者でもある場合、最初の要求が承認された後でも、承認を求めるプロンプトが繰り返し表示されることがあります。これは、システムがコンプライアンスを維持し、誤って削除してしまうことを防ぐため、承認者（要求者でもある）に保護されたスナップショットに関連する操作を明示的に確認させる必要があるためです。

Nutanix ECAのドキュメントより：

承認ポリシーにおいて管理者が承認者として設定されている場合、保護されたスナップショットの削除など、同じユーザーが開始した操作を明示的に確認する必要があるため、承認要求が繰り返し発生する可能性があります。これにより、管理操作が完全に意図的なものであることが保証されます。」

質問: 56

どの2つの要素を分類できますか？ 2つ選択してください。）

- A. 収納容器

- B. アラート
- C. 仮想マシン
- D. ISOイメージ

正解: **B,C** ([コメントを发表する](#))

Nutanix Prism Centralでは、カテゴリを使用することで、管理者はエンティティをグループ化して整理し、管理、自動化、およびポリシーの適用を行うことができます。

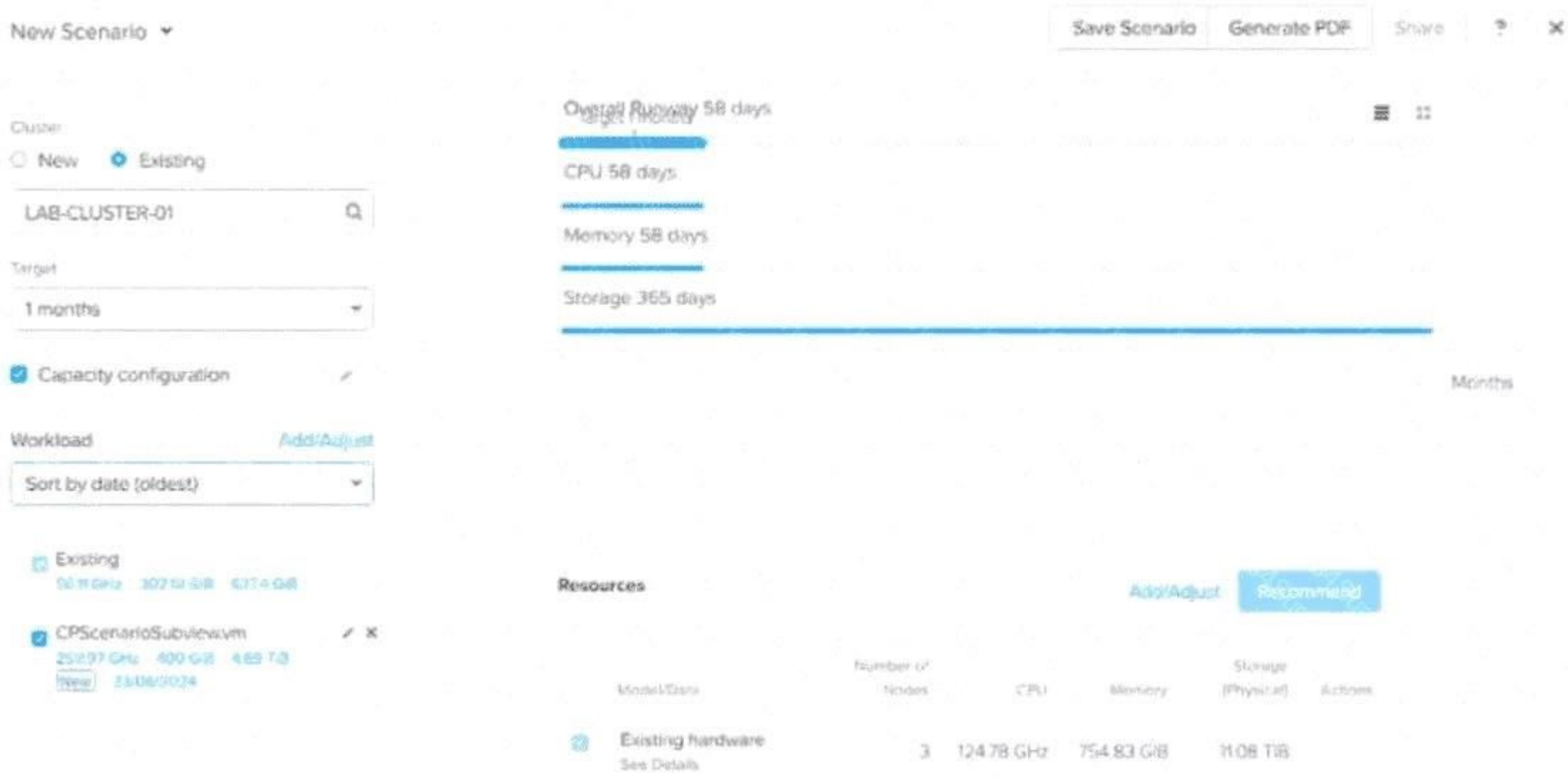
- * アラート オプションB)は、類似のシステムイベントをグループ化し、フィルタリングルールを作成するためにカテゴリ分けできます。
- * 仮想マシン オプションC)は、セキュリティポリシー、自動化タスク、およびリソース割り当てルールを適用するために分類できます。
- * オプションA (ストレージコンテナ)はPrism Centralでカテゴリ分けできません。ストレージポリシーはコンテナレベルで適用されますが、カテゴリによる管理は行われません。
- * オプション D (ISO イメージ) は、ISO が静的なオブジェクトであり、アクティブなエンティティではないため、分類できません。

参考文献：

- * Nutanix Prism Central ガイド #カテゴリの操作
- * Nutanixバイブル #カテゴリベースの管理とセキュリティポリシー
- * Nutanix KB # Prism Central での VM 管理におけるカテゴリの使用

質問: **57**

添付資料を参照してください。



新しいワークロードを追加した後、なぜ「Overall Runway」が365日を下回っているのに、シナリオではクラスターの状態が良好と表示されるのでしょうか？

- A. ストレージランウェイは依然として優れているからです。
- B. 新しいワークロードは持続可能であるため。
- C. 推奨リソースがあるからです。
- D. 目標が1ヶ月だからです。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Nutanixのキャパシティプランニングにおいて、全体的な稼働期間は、リソースが枯渇する前にクラスターが現在および新規のワークロードをサポートできる期間を表します。たとえ稼働期間が365日未満であっても、新しいワークロードが持続可能であれば、システムはクラスターの状態が良好であると判断する（オプションB）。

選択肢Aは誤りです。ストレージ容量だけが唯一の要素ではなく、CPUとメモリも同様に重要です。

選択肢Cは誤りです。推奨リソースが存在するからといって、クラスターの状態が良好であるとは限りません。

選択肢Dは誤りです。1ヶ月という目標は予測に影響を与えますが、クラスターが良好な状態にある理由を説明するものではありません。

参考文献：

Nutanix Prism Central # キャパシティランウェイとプランニング

質問: 58

管理者が物理データベースのMySQLをNutanixクラスタに移行しました。移行後、ピーク時のIOPSが予想よりも低く、レイテンシが高くなっています。管理者はこの行動を改善するために、どの2つの手順を踏むべきでしょうか？ 2つ選択してください。）

- A. SQLデータ用の追加vDiskを作成します。
- B. LVMを使用して、SQLデータを複数のvDiskにストライピングします。
- C. SQLデータvDiskがシンプロビジョニングされていることを確認してください。
- D. SQLデータvDiskがシックプロビジョニングされていることを確認してください。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Nutanixのストレージアーキテクチャは分散データパスを使用しており、各vDiskは分散論理オブジェクトを表します。データベースのパフォーマンスに関するベストプラクティスでは、次のように述べられています。

「複数のvDiskはNutanixストレージスタック全体で並列処理を提供し、I/Oキューの深度を増加させ、複数のCVMに操作を分散します。」また、Linuxベースのデータベースワークロードに関するガイダンスでは、次のように規定されています。

「複数のvDiskにLVMストライピングを適用することで、複数のI/Oチャネルを統合し、並列読み書き操作を強化することにより、スループットが向上します。」Nutanix環境では、シンプロビジョニングとシックプロビジョニングのどちらを使用してもパフォーマンスに影響はありません。メタデータ駆動型ストレージエンジンにより、どちらのタイプも同一のI/Oパフォーマンスを実現します。したがって、データベースのパフォーマンスは、追加の仮想ディスクとそれらへのストライピングによって向上する。

質問: 59

管理者は、ローカルのネットワークエンジニアと協力して、災害復旧 (DR) フェイルオーバーのためのネットワークアーキテクチャを設計しています。DNSは適切に設計 実装されているため、DRでは本番環境とは異なるサブネットを使用します。計画と実行を容易にするため、ネットワークエンジニアはDRでも同じ最後のオクテットを使用したいと考えています。これを実現するための最善の方法は何でしょうか？

- A. DRでのインスタンス化後にIPアドレスを更新するためにカスタムスクリプトを使用します。
- B. プランオフセットに基づくIPマッピングを利用する。
- C. DRイベント後にVMにログインし、IPアドレスの最後のオクテットを更新します。
- D. IPAMを設定して、DR中にアドレスが動的に割り当てられるようにします。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Nutanixリカバリプランでは、IPアドレスの変換はIPアドレスマッピングと呼ばれる自動化されたメカニズムによって処理されます。ドキュメントでは、固定マッピングとオフセットベースのマッピングという2つの方法について説明しています。

Offset-based mapping allows administrators to maintain consistent host identity attributes such as the last octet while shifting only the subnet portion during DR failover. The internal guidance states, "Offset-based mapping enables automatic recalculation of target IP addresses using offsets applied to source subnets, allowing preservation of host-specific octets across networks." Custom scripts are possible but not recommended because Nutanix already provides a built-in, automated IP transformation system. Editing IPs inside VMs after failover is operationally expensive and defeats the purpose of an orchestrated DR workflow. IPAM is useful for dynamic IP assignment but does not preserve the last octet mapping requirement.

Thus, Offset-based IP mapping is the correct mechanism for this requirement.

質問: 60

Due to application requirements, an administrator needs to support amulticast configurationin anAHV cluster.

Which AHV feature can be used to optimize network traffic so that multicast traffic is only forwarded to the VMs that need to receive it?

- A. LACP
- B. IGMP Snooping

C. UDP
D. Network Segmentation
正解: ([正解を表示します](#))

質問: 61
Which two URLs must be accessible from a Connected Site's Controller VM to allow Life Cycle Manager (LCM) to download software updates?
A. download.nutanix.com
B. mynutanix.com
C. release-api.nutanix.com
D. portal.nutanix.com

正解: ([正解を表示します](#))
LCM (Life Cycle Manager) fetches software updates from Nutanix's repositories, requiring access to specific URLs.
* Option A (download.nutanix.com) is correct:
* This domain hosts all software update files for AOS, AHV, and other Nutanix components.
* Option C (release-api.nutanix.com) is correct:
* This domain is used for LCM to fetch update metadata and check for new versions.
* Option B (mynutanix.com) is incorrect:
* This domain is used for account management, not LCM updates.
* Option D (portal.nutanix.com) is incorrect:
* The Nutanix support portal is not used for automated LCM updates.

References:
* Nutanix LCM Guide#Firewall Rules for LCM Connectivity
* Nutanix KB#Troubleshooting LCM Update Failures

有効的な**NCP-MCI-6.10**問題集はJPNTest.com提供され、**NCP-MCI-6.10**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**NCP-MCI-6.10**試験問題集を提供します。JPNTest.com NCP-MCI-6.10試験問題集はもう更新されました。ここで**NCP-MCI-6.10**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/NCP-MCI-6.10-mondaishu> 176問、30%ディスカウント、特別な割引コード：**JPNshiken**」

質問: 62
An administrator wants to disable password-based SSH access for the nutanix user on a CVM to improve security.
What action should the administrator take?
A. Rename the nutanix user.
B. Block port 22 on the CVM firewall.
C. Enable Cluster Lockdown.
D. Delete the nutanix user.
正解: C ([コメントを發表する](#))
Enabling "Cluster Lockdown" in Nutanix is the best security measure to prevent password-based SSH logins.
* Option C (Enable Cluster Lockdown) is correct:
* Cluster Lockdown disables password-based SSH and requires key-based authentication.

- * Option A (Rename the nutanix user) is incorrect:
- * The Nutanix user is a system account and cannot be renamed.
- * Option B (Block port 22) is incorrect:
- * This would prevent all SSH connections, including key-based logins, making administration difficult.
- * Option D (Delete the nutanix user) is incorrect:
- * The nutanix user is required for system operations and cannot be removed.

References:

- * Nutanix Security Guide #Implementing Cluster Lockdown
- * Nutanix KB #Best Practices for SSH Security on CVMs

質問: 63

添付資料を参照してください。



管理者は、図に示すようなメモリクラスタのランウェイ図をPrism Centralで確認しています。この環境には、以下の構成を持つ3台のホストがあります。

- * CPU: Intel Xeon Gold 2基 (8コア、2.6GHz)

* RAM: ホストあたり256GB

* ストレージ :SSDとHDD

インテリジェントオペレーション機能は1か月間有効になっていますが、それ以上の設定変更は行われていません。

点線の赤い線は何を意味しますか？

A. 現在実行中の仮想マシンの計算されたメモリ超過制限です。

B. これは、手動で設定できるデフォルトのトレンド分析静的しきい値です。

C. これは、管理者が仮想マシンに割り当てることができる最大メモリ容量です。

D. これは、クラスタ構成オプションに基づく使用可能な容量です。

正解: ([正解を表示します](#))

質問: **64**

A cluster has an RF3 storage container with many VMs. Before the cluster runs out of space, the administrator has created a new RF2 storage container and would like to live migrate the vDisks.

Which check should be done before performing vDisk migration?

A. Remove VMs from Protection Domains or Protection Policies.

B. Ensure storage optimization options match between storage containers

C. Verify Multichannel Support is enabled.

D. Validate network latency is below 5 milliseconds.

正解: ([正解を表示します](#))

質問: **65**

管理者は、永続的なデスクトップ用の新しいストレージコンテナを作成するよう要求を受けました。

管理者は、容量を最大限に節約するために、どのストレージ最適化設定を行うべきでしょうか？

A. 消去符号化

B. 遅延時間0分のインライン圧縮

C. 読み取りキャッシュのインライン重複排除

D. 後処理重複排除

正解: ([正解を表示します](#))

The Nutanix ECA course covers storage optimization techniques for Nutanix storage containers, particularly for workloads like persistent desktops, which require efficient capacity utilization due to their repetitive data patterns.

Persistent desktops typically store user-specific data and configurations, making them ideal candidates for storage optimization techniques like compression, deduplication, or erasure coding. The question asks for the setting

that provides thebest possible capacity savings.

Extract from Nutanix Enterprise Cloud Administration (ECA) Course Documents:

Module: Storage Management, Section: Storage Optimization"Erasure Coding provides the highest capacity savings for workloads with large amounts of data, such as persistent desktops. By distributing data and parity across

nodes, Erasure Coding reduces storage overhead compared to replication factor (RF) while maintaining fault tolerance." Module: Storage Configuration, Section: Optimization for Virtual Desktops"For persistent desktop

workloads, Erasure Coding is recommended to maximize capacity savings. It is more efficient than compression or deduplication alone, as it reduces the storage footprint by encoding data across nodes, making it ideal for

environments with high data redundancy." Explanation of Options:

A). Erasure CodingThis is the correct answer. Erasure Coding (EC-X) is a storage optimization technique in Nutanix AOS that distributes data and parity information across nodes, reducing the storage overhead compared to

traditional replication factor (RF) settings. For persistent desktops, which often have large datasets with redundant patterns, Erasure Coding provides significant capacity savings by encoding data efficiently while maintaining

fault tolerance. The ECA course highlights that Erasure Coding is particularly effective for workloads with cold or less frequently accessed data, which aligns with persistent desktop storage.

Supporting Extract:"Erasure Coding can achieve up to 50% or more capacity savings compared to RF=2 for workloads like virtual desktops, making it the most effective optimization for capacity-constrained environments." B).

Inline compression with a delay of 0 minutesThis is incorrect. Inline compression reduces data size in real- time as it is written to storage, but it provides less capacity savings compared to Erasure Coding for persistent

desktops. Compression is effective for reducing the size of compressible data, but persistent desktops often benefit more from Erasure Coding due to their larger datasets and redundancy. Additionally, a delay of 0 minutes means compression occurs immediately, which may increase write latency without maximizing savings. The ECA course notes:"Inline compression is useful for general workloads but is less effective than Erasure Coding for high-capacity workloads like persistent desktops." C). Inline Deduplication of Read CachesThis is incorrect. Deduplication removes duplicate data blocks, but "Inline Deduplication of Read Caches" is not a standard Nutanix feature for storage containers. Nutanix supports inline and post-process deduplication, but these apply to data writes, not specifically to read caches. Even if deduplication were applied, it would provide less capacity savings than Erasure Coding for persistent desktops, as deduplication depends on data similarity, whereas Erasure Coding optimizes storage across all data types. The ECA course states:"Deduplication is effective for workloads with high data similarity, but Erasure Coding provides broader capacity savings for large-scale desktop deployments." D). Post Process DeduplicationThis is incorrect. Post-process deduplication analyzes and removes duplicate data after it is written, which can save capacity but is less efficient than Erasure Coding for persistent desktops. Deduplication requires significant data similarity to achieve savings, and its post-process nature delays optimization, potentially leading to temporary storage overuse. The ECA course clarifies:"Post-process deduplication is suitable for specific workloads, but Erasure Coding is preferred for persistent desktops due to its superior capacity efficiency and immediate applicability across nodes." Additional Context from ECA: Erasure Coding Details: Erasure Coding works by splitting data into fragments, adding parity information, and distributing these across nodes. For a storage container with persistent desktops, enabling Erasure Coding (e.g., with a stripe width of 4+2) can significantly reduce the storage footprint compared to RF=2 or RF=3. The ECA course notes:"Erasure Coding is ideal for containers with large datasets, such as VDI environments, where capacity savings are critical." Persistent Desktops: These desktops store user data and configurations, leading to large, redundant datasets. Erasure Coding's ability to optimize storage across nodes makes it the best choice for capacity savings, as confirmed by the ECA materials. Supporting Reference from Web Results: The Nutanix Bible (<https://www.nutanix.com/go/the-nutanix-bible>) supports the ECA documentation:" Erasure Coding (EC-X) provides the highest capacity efficiency for workloads like persistent desktops, reducing storage overhead by distributing data and parity across nodes, outperforming compression and deduplication in capacity-constrained environments."

質問: 66

Which predefined view should be leveraged in Prism Central Intelligent Operations to determine which VM is consuming too many resources and causing other VMs to starve?

- A. Constrained VMs List
- B. Bully VMs List
- C. Inactive VMs List
- D. Overprovisioned VMs List

正解: ([正解を表示します](#))

TheBully VMs Listview in Prism Central'sIntelligent Operationsidentifies VMs that are consumingexcessive resources(CPU, memory, or storage IO) and causing resource starvation for other VMs.

From theNutanix ECA documentation:

"Bully VMs List identifies virtual machines with high resource consumption, enabling administrators to investigate and take action to prevent performance degradation in other VMs." The other options:

- * A (Constrained VMs): Shows VMs that are being starved of resources.
- * C (Inactive VMs): Shows VMs that are using little to no resources.
- * D (Overprovisioned VMs): Shows VMs with allocated resources beyond actual usage.

質問: 67

Refer to the Exhibit:

Host 1 (128 GB)			
VMs	VM Memory (GB)	Utilized Memory (GB)	Unutilized Memory (GB)
VM1	64 GB	48 GB	16 GB
VM2	32 GB	20 GB	12 GB
VM3	32 GB	24 GB	8 GB
Total	128 GB	92 GB	36 GB

An administrator needs to create two virtual machines: VM4 and VM5 that leverage the memory over-commit feature.

Once VM4 is created and running, the administrator notices that it uses only 28GB of RAM.

What will be the maximum RAM that can be allocated to VM5 so that it can be powered on?

- A. 4GB
- B. 8GB
- C. 16GB
- D. 32GB

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Understanding the Exhibit & Memory Allocation

- * Thehost has 128GB of physical RAM.
- * Thecurrent memory allocationacrossthree VMs (VM1, VM2, VM3) is 128GB, but only92GB is actually utilized.
- * This means there is36GB of unutilized memory available for allocation.

Step-by-Step Breakdown

- * Existing Memory Usage Before Adding VM4
- * Total Physical RAM:128GB
- * Used by running VMs (VM1, VM2, VM3):92GB
- * Unutilized Memory Available:36GB
- * After Creating and Running VM4
- * VM4 is allocatedmemory but only utilizes 28GB.
- * The table does not show VM4's allocated RAM, but assuming it was given a reasonable allocation, it must have been taken from the36GB unutilized memory pool.
- * IfVM4 uses 28GB, theremaining unutilized memory is now (36GB - 28GB) = 8GB.
- * Maximum Memory Allocation for VM5
- * Sinceonly 8GB remains unutilized, the maximum memory VM5 can be allocated while still allowing it to power on is8GB.

Evaluating the Answer Choices

- * (A) 4GB#(Incorrect)
- * More memory (8GB) is available, so limiting to 4GB is unnecessary.
- * (B) 8GB#(Correct)
- * Theremaining unutilized memory after VM4 is 8GB, so VM5 can be allocated up to8GBwhile ensuring it can power on.
- * (C) 16GB#(Incorrect)

- * Only 8GB is left, so 16GB is not possible.
- * (D) 32GB#(Incorrect)
- * There is not enough unutilized memory to allocate 32GB.

Key Concept: Nutanix Memory Overcommit

- * Nutanix AHV supports memory overcommit, meaning VMs can be allocated more memory than physically available using memory ballooning and swapping.
- * However, to power on VM5 without impacting performance, it must fit within the available unutilized memory, which is 8GB.

質問: 68

An administrator receives an alert in Prism stating:

"Storage container <container_name> on cluster <cluster_name> will run out of storage resources in approximately 1 day." However, the cluster has plenty of available space remaining.

What configuration setting is causing the container to run out of space while the cluster has space remaining?

- A.** Advertised Capacity is set too low.
- B.** Reserved Capacity is set too high.
- C.** Compression is set too low.
- D.** Replication Factor is set too high.

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Reserved Capacity settings define how much storage is exclusively allocated for a specific container.

- * Option B (Reserved Capacity is too high) is correct:
- * If too much space is reserved for a container, it can report "out of space" while the cluster still has free capacity.
- * Options A, C, and D are incorrect:
- * Advertised Capacity, Compression, and RF settings do not directly cause storage exhaustion unless misconfigured with Reserved Capacity.

References:

- * Nutanix Storage Best Practices#Configuring Reserved and Advertised Capacity
- * Nutanix KB#Troubleshooting Storage Container Out-of-Space Alerts

質問: 69

管理者は、単一ノードクラスターを使用して展開された複数のリモート拠点でレプリケーションスケジュールを構成しており、RPO（目標復旧時点を最小化したいと考えています）。

- A.** NearSyncを設定します。
- B.** 非同期を設定します。
- C.** 16～59分のスケジュールを設定します。
- D.** 1～15分のスケジュールを設定します。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

Nutanixのデータ保護ガイドでは、NearSyncレプリケーションは1～15分のRPOを提供すると明記されており、これは標準的な非同期ベースのレプリケーションモデルで利用可能な最小のRPOです。また、NearSyncは1ノードおよび2ノードのクラスターで1時間未満のRPOを実現するためのサポートされている方法であるとも記載されています。非同期レプリケーションの最小RPOは60分であるため、最小RPOの要件には使用できません。1～15分といったスケジュールリング間隔は似ているように見えますが、Nutanixはこれらの間隔はNearSyncレプリケーションモードでのみ実現可能であると指摘しています。したがって、最小RPOを実現するという目標を達成するには、NearSyncを選択することが必須構成となります。

質問: 70

Which feature deploys a temporary VM to allow an administrator to log in and apply OS patches to a VM template?

- A.** Create VM from Template

- B. Update Configuration
- C. Complete Guest OS Update
- D. Update Guest OS

正解: **C** ([コメントを發表する](#))

Nutanix describes a special process for updating golden images or templates without modifying the original source object directly. The documentation states:

"Complete Guest OS Update creates a temporary, cloned instance of the template, boots it, and allows administrators to patch or update the operating system. Once updates are applied, the system recomposes the template with the modifications." This process ensures that templates remain clean and version-controlled while still allowing regular OS patching operations. Other options such as Create VM from Template merely instantiate running VMs and do not update the template source. Update Guest OS and Update Configuration refer to VM-level settings but do not create a temporary working copy for template lifecycle management.

Thus, Complete Guest OS Update is the correct feature.

質問: **71**

An administrator has been tasked with monitoring performance across a number of different entities in the Nutanix cluster. The CIO has asked the administrator to provide Analysis charts that show performance as granularly as possible.

Given this request, what is the smallest preset time interval (in hours) that the administrator can select in a Metric or Entity Chart?

- A. 1
- B. 3
- C. 12
- D. 24

正解: ([正解を表示します](#))

When using Metric or Entity Charts in Prism Central for performance monitoring, the most granular preset time interval that can be selected is 1 hour.

From the Nutanix Enterprise Cloud Administration (ECA) course materials:

"Prism Central provides performance data visualization with customizable time intervals. The smallest preset interval for metric and entity charts is 1 hour, providing highly detailed performance information over short periods."

This allows administrators to monitor performance fluctuations at a fine-grained level, aligning with best practices for troubleshooting and optimization.

質問: **72**

A company is evaluating Nutanix Disaster Recovery (DR) to protect multiple business-critical applications.

Some applications are built using a 3-tier architecture and have interdependencies.

After failover, the VM's static IP address is retained, but DNS configuration is lost.

How should an administrator proceed to resolve this issue?

- A. Configure Self-Service Restore.
- B. Create custom in-guest scripts to preserve the statically assigned DNS IP addresses.
- C. Install Network Manager command-line tool (nncli) in the protected Windows VMs.
- D. Configure a Protection Domain.

正解: **B** ([コメントを發表する](#))

During failover in Nutanix Disaster Recovery, VMs retain their static IPs but may lose DNS settings if the network configuration at the DR site is different from the primary site.

* Option B (Create custom in-guest scripts) is correct:

* Custom scripts allow Windows or Linux VMs to restore DNS settings automatically after failover.

* These scripts can be executed using post-failover automation in Nutanix DR policies.

* Option A (Self-Service Restore) is incorrect:

* Self-Service Restore is used for end-user recovery of deleted files, not for network settings.

* Option C (nncli tool) is incorrect:

- * nncliツールはネットワークのトラブルシューティングに使用されますが、DNS設定を自動的に復元する機能はありません。
- * オプションD（保護ドメインの設定）は誤りです。
- * 保護ドメインはレプリケーションポリシーを定義しますが、フェイルオーバー後にDNS設定を修正しません。

参考文献：

Nutanix ディザスタリカバリーガイド #フェイルオーバーの自動化とネットワーク構成 Nutanix バイブル #DR シナリオにおける VM リカバリーと IP 管理 Nutanix KB #ディザスタリカバリーにおける DNS 設定の保持

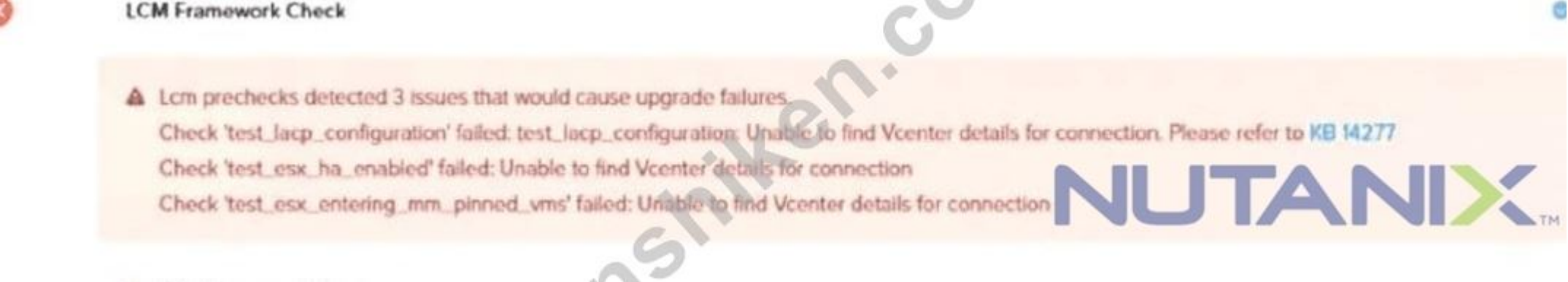
質問: 73

Which networking component in AHV is responsible for providing network connectivity to virtual machines?

- A. RDMA
- B. Virtual Switch (vSwitch)
- C. Controller VM (CVM)
- D. Nutanix Files

正解: (正解を表示します)

質問: 74



LCMフレームワークチェック

LCMの事前チェックにより、アップグレードの失敗につながる可能性のある問題が3つ検出されました。

テスト lacp_configuration のチェックが失敗しました: test_lacp_configuration: 接続用の Vcenter の詳細が見つかりません。

KB 14277 を参照してください。チェック テスト esx_ha_enabled' が失敗しました: 接続の Vcenter の詳細が見つかりません。チェック test_es_entering_mm_pinned_vms' が失敗しました: 接続の Vcenter の詳細が見つかりません。X LCM フレームワーク チェック 管理者が Nutanix クラスターの NIC ファームウェアをアップグレードしようとして、図に示すエラーが表示されます。

LCMの事前チェック失敗を分析するのに最も適切なログはどれですか？

- A. genesis.out
- B. 1cm_ops.out
- C. 1cm_wget.out
- D. catalog.out

正解: B (コメントを发表する)

The LCM (Life Cycle Manager) precheck failures in this scenario indicate an inability to connect to vCenter to validate ESXi-specific checks, such as LACP configuration, HA, and pinned VMs. The appropriate log to analyze the details of the LCM precheck failures is the 1cm_ops.out log.

From theNutanix Enterprise Cloud Administration (ECA)course materials:

"The 1cm_ops.out log file contains detailed output and error information related to LCM operations, including prechecks, execution, and post-checks. This log is essential for troubleshooting LCM framework failures and understanding the root cause of any issues preventing upgrades."

質問: 75

管理者が保護ドメインのレプリケーション用にリモートサイトを設定しましたが、ネットワークのパフォーマンスと安定性に影響が出ています。この問題を解決するには、リモートサイトの設定をどのように調整すればよいでしょうか？

- A. 2 つの Nutanix クラスタ間でネットワーク アドレス変換 (NAT) を設定します。
- B. 保護ドメインを多対多のレプリケーションで構成します。
- C. 帯域幅制限ポリシーを設定します。
- D. リモートクラスタVIPをプロキシとして構成します。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

レプリケーション中のネットワークパフォーマンスの問題は、帯域幅制限を使用してトラフィックの急増を制御することで軽減できます。

- * オプションC（帯域幅制限ポリシーの設定）が正解です。
- * 帯域幅制限により、特にピーク使用時間帯において、レプリケーションによってネットワークが飽和状態にならないようにします。
- * これは、遠隔地間の低帯域幅接続において特に有効です。
- * オプションA（NATの設定）は誤りです。
- * Nutanixクラスタ間のリモートサイトレプリケーションにはNATは不要です。
- * オプションB（多対多レプリケーション）は誤りです。
- * これはネットワークのパフォーマンスに直接的な影響を与えるのではなく、トラフィック負荷を増加させる可能性があります。
- * オプションD（リモートクラスタVIPをプロキシとして使用する）は誤りです。
- * VIP構成は負荷分散に役立ちますが、帯域幅の問題を解決するものではありません。

参考文献：

- * Nutanix 保護ポリシーガイド #リモートサイトレプリケーションの帯域幅制限
- * Nutanix KB #災害復旧のためのネットワークパフォーマンスの最適化

質問: 76

An administrator observes an alert in Prism for a hybrid SSD/HDD cluster:

"Storage Pool SSD utilization consistently above 75%."

What is the potential impact of this condition?

- A. The cluster is unable to sustain an SSD disk failure.
- B. The cluster may be nearly out of storage for metadata.
- C. The cluster is at risk of entering a read-only state.
- D. Average I/O latency in the cluster may increase.

正解: [\(正解を表示します\)](#)

High SSD utilization in a hybrid cluster can lead to increased I/O latency as new writes may spill over to HDDs, reducing overall performance.

- * Option D (Average I/O latency in the cluster may increase) is correct:
- * If SSD usage is above 75%, data tiering shifts to slower HDDs, increasing latency.
- * Option A is incorrect:
- * SSD failures are managed via redundancy policies (RF2/RF3), and high utilization does not impact failure handling.
- * Option B is incorrect:
- * Metadata is stored separately, and high SSD usage does not mean metadata is at risk.
- * Option C is incorrect:
- * Clusters do not go into read-only mode due to high SSD utilization-they simply experience performance degradation.

References:

* Nutanix Storage Performance Guide#SSD Tiering and Performance Management

* Nutanix KB#ハイブリッドクラスタにおける高SSD使用率の管理

有効的な**NCP-MCI-6.10**問題集はJPNTest.com提供され、**NCP-MCI-6.10**試験に合格することに役に立ちます！JPNTest.comは今最新**NCP-MCI-6.10**試験問題集を提供します。JPNTest.com NCP-MCI-6.10試験問題集はもう更新されました。ここで**NCP-MCI-6.10**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/NCP-MCI-6.10-mondaishu> 176問、30%ディスカウント、特別な割引コード:

JPNshiken」

質問: 77

A user created a report in the Intelligent Operations Analysis Dashboard but forgot to download it. However, after logging back into Prism Central, the administrator finds that the report is no longer available.

What is the most likely cause?

A. A user with Cluster Viewer role deleted the report.

B. The user-generated report was archived.

C. Reports are automatically deleted after 24 hours.

D. The report is stored in the cluster's Prism Element.

正解: ([正解を表示します](#))

In Nutanix Prism Central, user-generated reports in Intelligent Operations are stored for a limited time and then deleted automatically.

Option C (Reports are automatically deleted after 24 hours) is correct:

Reports do not persist indefinitely unless they are scheduled reports.

One-time reports expire after 24 hours.

Option A (Cluster Viewer deleted the report) is incorrect:

Cluster Viewer does not have permissions to delete reports.

Option B (Report was archived) is incorrect:

Nutanix does not automatically archive reports.

Option D (Report stored in Prism Element) is incorrect:

Reports are generated and stored only in Prism Central, not Prism Element.

References:

Nutanix Prism Central Guide #Intelligent Operations & Report Retention Policies Nutanix KB #Why Reports in Prism Central Are Not Persisting

質問: 78

管理者は、インターネット経由で接続された新しいNutanixクラウドクラスター (NC2) に仮想マシンを複製するための保護ポリシーを設定しています。

組織のセキュリティポリシーを遵守するためには、インターネット経由で送信されるデータは暗号化されなければならない。

準拠するためには、どの機能を考慮すべきでしょうか？

A. 自己暗号化ドライブ上のデータを設定します。

B. UEFIセキュアブートを使用するようにVMを設定します。

C. 保存データの暗号化を有効にする。

D. 転送中のデータ暗号化を有効にする。

正解: ([正解を表示します](#))

Nutanixの保護ポリシーは、Nutanixの組み込みデータ保護エンジンを使用して、クラスター間でVMデータをレプリケートします。サイト間またはクラウドベースのレプリケーションの場合、Nutanixのドキュメントでは、データ転送暗号化機能を使用してレプリケーショントラフィックを暗号化できると規定されています。内部説明には次のように記載されています。

データ転送暗号化は、外部ネットワークや信頼できないネットワークを介して送信される前にデータパケットを暗号化することで、クラスター間を移動するレプリケーショントラフィックを保護します。」これは、ディスクに保存されているデータを保護するものの、ネットワークトラフィックを保護しないデータ保存暗号化とは異なります。自己暗号化ドライブとセキュアブートは、仮想マシンをローカルで保護するだけで、レプリケーションパスは保護しません。NC2へのレプリケーションはインターネット経由で行われるため、セキュリティコンプライアンスを満たすには、トランスポートチャネルの暗号化が必須です。

したがって、必要な機能はデータ転送時の暗号化である。

質問: **79**

Prism Centralのインテリジェントオペレーションにおけるどの事前定義済みビューを使用すれば、どの仮想マシンが過剰なリソースを消費し、他の仮想マシンのパフォーマンス問題を引き起こしているかを特定できますか？

- A.** 非アクティブなVMのリスト
- B.** 過剰にプロビジョニングされたVMのリスト
- C.** いじめっ子VMリスト
- D.** 制約付きVMリスト

正解: ([正解を表示します](#))

Prism Centralのインテリジェントオペレーションにある「いじめVMリスト オプションC)」は、過剰なCPU、メモリ、またはストレージを消費し、他のVMに悪影響を与えているVMを特定します。

* オプション A (非アクティブな VM リスト) は、使用されていない VM を識別するために使用されますが、パフォーマンスの問題は検出しません。

* オプション B (過剰にプロビジョニングされた VM リスト) は、割り当てられたリソースが過剰な VM を特定するのに役立ちますが、ライブ パフォーマンスへの影響には焦点を当てていません。

* オプション D (制約付き VM リスト) は、リソース競合が発生している VM を強調表示し、競合の原因となっている VM は強調表示しません。

参考文献：

* Nutanix Prism Central #インテリジェントな運用とパフォーマンスチューニング

* Nutanix KB #リソースを大量に消費する仮想マシンの特定と管理

質問: **80**

管理者は、すべてのNutanixサイトのファームウェアアップグレードを実行する任務を負っています。

When attempting to performfirmware upgrades via Life Cycle Manager (LCM)at aremote site with a single- node cluster, no firmware updates are listed as available. The administrator confirmed that the currently installed firmware isseveral revisions behind.

Why are no firmware upgrades listed in LCM for this cluster?

- A.** Single-node clusters only support one-disk firmware upgrades.
- B.** LCM is not supported on single-node clusters.
- C.** LCM cannot perform firmware upgrades on single-node clusters.
- D.** LCM does not have connectivity to the internet.

正解: ([正解を表示します](#))

The Nutanix Life Cycle Manager (LCM) is designed to manage and automate firmware and software upgrades across Nutanix clusters. However, firmware upgrades via LCM are not supported for single-node clusters. This limitation is documented in the ECA course as well as in LCM's official release notes and guides.

From the Nutanix Enterprise Cloud Administration (ECA) course materials:

"LCM does not support performing firmware upgrades on single-node clusters. These clusters require manual upgrades, and LCM will not list any available firmware updates for them, regardless of the firmware revision state."

The other options:

* A is incorrect; single-node clusters don't have this limitation specifically for "one-disk" firmware upgrades-it's a complete limitation for all firmware tasks in LCM.

* B is misleading; LCM is supported in general for Nutanix clusters, just not for firmware tasks in single- node clusters.

* D is incorrect because lack of internet connectivity would typically show an error related to download or connectivity issues, not complete absence of firmware updates.

質問: 81

ある企業が、複数の業務上重要なアプリケーションを保護するために、Nutanixの災害復旧 (DR) ソリューションを評価している。一部のアプリケーションは3層アーキテクチャを使用して構築されており、相互依存関係を持っています。フェイルオーバー後、VMの静的IPアドレスは保持されますが、DNS設定は失われます。管理者はこの問題を解決するために、どのように対応すべきでしょうか？

- A. 静的に割り当てられた DNS IP アドレスを保持するためのカスタム イン ゲスト スクリプトを作成します。
- B. 保護対象のWindows VMIにNetwork Managerコマンドラインツール (ncli) をインストールします。
- C. 保護ドメインを設定します。
- D. セルフサービス復元を設定します。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

質問: 82

NutanixにおけるNearSyncレプリケーションの主な機能は何ですか？

- A. RPOゼロの同期データレプリケーションを提供します
- B. RPOが1分未満でデータを複製します
- C. VMスナップショットを外部クラウドストレージにバックアップします
- D. クラスター間でワークロードを自動的に移行します

正解: B ([コメントを發表する](#))

質問: 83

If an administrator creates a report with no retention policy configured, how many instances of the report are retained by default?

- A. 5
- B. 10
- C. 15
- D. 20

正解: [\(正解を表示します\)](#)

デフォルトでは、保持ポリシーが設定されていない場合、Nutanix Prism Centralはレポートの最新10件を保持します。

選択肢B (10)が正解です。

Nutanixは最大10件のレポートを保存し、それより古いレポートは自動的に削除されます。

選択肢A (5)、C (15)、D (20)は誤りです。

保持ポリシーはカスタマイズ可能ですが、デフォルト設定は10件のレポートです。

参考文献：

Nutanix Prism Central ガイド #レポート生成および保持ポリシー

Nutanix KB # Prism Central でのレポートの保存と管理方法

質問: 84

An administrator wants to ensure that DR snapshots are protected from inadvertent or malicious deletion without notification. What would be the best way to accomplish this?

- A. Create and Apply an Approval Policy.

- B.** Create and Apply an Alert Policy.
- C.** Assign DR Admin Role to users.
- D.** Create a Playbook to alert on event

正解: (正解を表示します)

The Nutanix ECA course addresses data protection mechanisms, including how to safeguard disaster recovery (DR) snapshots from inadvertent or malicious deletion. Ensuring that DR snapshots are protected while providing notification requires a policy-based approach to control and monitor deletion actions. The ECA course emphasizes the use of Approval Policies in Prism Central to enforce oversight on critical operations like snapshot deletion.

Extract from Nutanix Enterprise Cloud Administration (ECA) Course Documents:

Module: Data Protection, Section: Approval Policies "Approval Policies in Prism Central allow administrators to enforce review and approval for operations such as snapshot deletion. By creating an Approval Policy for DR snapshots, administrators can ensure that deletion requests are reviewed by designated approvers, preventing unauthorized or accidental deletions and providing notifications to relevant stakeholders." Module: Prism Central Management, Section: Policy Engine "To protect critical resources like DR snapshots, an Approval Policy can be applied to require approval for deletion actions. This ensures that no snapshot is deleted without explicit authorization, and notifications are sent to approvers to maintain oversight." Explanation of Options:

A). Create and Apply an Approval Policy This is the correct answer. An Approval Policy in Prism Central is the best way to protect DR snapshots from inadvertent or malicious deletion. The policy requires designated approvers to review and authorize snapshot deletion requests, ensuring oversight and preventing unauthorized actions. Notifications are sent to approvers, meeting the requirement for awareness of deletion attempts. The ECA course highlights: "Approval Policies are ideal for protecting critical data assets, such as DR snapshots, by enforcing a mandatory review process before deletion." B). Create and Apply an Alert Policy This is incorrect. Alert Policies in Nutanix are used to notify administrators of system events or thresholds (e.g., high CPU usage or disk failures) but do not prevent actions like snapshot deletion. While an Alert Policy could notify administrators after a deletion occurs, it does not provide proactive protection or require approval, failing to meet the question's requirements. The ECA course states: "Alert Policies are reactive and designed to notify administrators of events, not to control or prevent actions like snapshot deletion." C). Assign DR Admin Role to users This is incorrect. Assigning a DR Admin Role grants users permissions to manage DR operations, including snapshot deletion, but does not add protection or notification mechanisms.

In fact, it could increase the risk of deletion by granting more users access. The ECA course notes: "The DR Admin Role provides administrative privileges for data protection tasks but does not enforce approval workflows or protect against unauthorized deletions." D). Create a Playbook to alert on event This is incorrect. Playbooks in Nutanix Flow or Prism Central are used to automate responses to events (e.g., scaling resources or sending alerts), but they are not designed to prevent snapshot deletion or enforce approval workflows. A Playbook could alert administrators after a deletion event, but it lacks the proactive control provided by an Approval Policy. The ECA course clarifies: "Playbooks are suited for automated remediation or notifications but cannot enforce approval for actions like snapshot deletion." Additional Context from ECA:

Approval Policy Workflow: In Prism Central, an Approval Policy can be created under Policies > Approval Policies, specifying DR snapshots as the target resource and defining approvers. When a user attempts to delete a protected snapshot, the request is queued for approval, and notifications are sent to approvers via email or Prism Central's interface.

Use Case: For DR snapshots, which are critical for recovery, Approval Policies ensure that only authorized personnel can approve deletions, reducing the risk of data loss.

Supporting Reference from Web Results:

Nutanix Bible (https://www.nutanix.com/go/the-nutanix-bible) は、ECA のドキュメントを裏付ける内容として、Prism Central の承認ポリシーは、スナップショットの削除などの操作をきめ細かく制御し、必須の承認ワークフローを通じて重要な DR リソースが保護されることを保証します。」と述べています。

質問: 85

ホストメモリをアップグレードする際に、最初に実行すべきタスクはどれですか？

- A.** 帯域外管理インターフェースを使用してホストを正常に停止します。
- B.** クラスターからノードを削除します。
- C.** AHV コマンドラインインターフェースから `$shutdown -h now` を実行します。
- D.** ノードをメンテナンスモードにする

正解: D (コメントを发表する)

Nutanix ECA コースでは、クラスタの安定性とデータ可用性を確保するために、ホストメモリの追加など、ハードウェアのアップグレードを実行するための詳細な手順を解説しています。ホストメモリのアップグレードを行うには、実行中の仮想マシンやクラスタの動作を妨げないよう、ノードを安全に準備する必要があります。

Extract from Nutanix Enterprise Cloud Administration (ECA) Course Documents:

Module: Cluster Management, Section: Hardware Upgrades"Before performing hardware upgrades, such as adding host memory, the node must be placed into maintenance mode. This ensures that all VMs are migrated to other nodes and the host is safely isolated from cluster operations." Module: Host Maintenance, Section: Maintenance Mode"Placing a node into maintenance mode is the first step for hardware upgrades. Maintenance mode migrates all VMs to other nodes, stops the Controller VM (CVM), and prepares the host for safe shutdown or hardware changes." Explanation of Options:

A) 帯域外管理インターフェイスを使用してホストを正常に停止する これは誤りです。メンテナンス モードに入らずに帯域外管理インターフェイス (IPMI や iLO など) を介してホストを停止すると、実行中の VM やクラスタサービスが中断されるリスクがあります。ECA コースでは、メンテナンス モードに入らずにホストをシャットダウンすると、VM が移行されないため、VM のクラッシュやデータの利用不能が発生する可能性があります」と警告しています。B) クラスタからノードを削除する これは誤りです。クラスタからノードを削除すると、クラスタのメタデータとストレージ プールからノードが切り離されるため、再参加するには再イメージングが必要になります。メモリの追加などの一時的なハードウェア アップグレードには適していません。ECA コースでは、「ハードウェア アップグレードにノードの削除は必要なく、クラスタ構成が中断されるため避けるべきです」と述べています。C) AHV コマンドライン インターフェイスから `shutdown -h now`を実行する これは誤りです。メンテナンス モードに入らずに AHV ホストで `shutdown -h now` を実行すると、ホストが突然停止し、VM がクラッシュしたり、クラスタ操作が中断されたりする可能性があります。ECA コースでは、メンテナンス モードに入らずに CLI を介してホストを直接シャットダウンすると、データ損失やサービス中断のリスクがあります」と指摘しています。D) ノードをメンテナンス モードにする これが正解です。ノードをメンテナンス モードにすることは、ハードウェア アップグレードの最初のステップです。これにより、すべての VM が安全に他のノードに移行され、CVM が停止し、ホストがシャットダウンまたはハードウェア変更の準備ができます。ECA コースでは、メンテナンス モードによってアップグレード中のクラスタの安定性が確保されることを強調しています。サポート抜粋 : ホストメモリをアップグレードするには、Prism Element または CLI コマンド `ncli host maintenance_mode` を使用してノードをメンテナンスモードにします。これにより、VM の安全な移行とホストの分離が保証されます。」 ECA からの追加コンテキスト:

メンテナンスモードのプロセス: Prism Element では、メンテナンスモードは [ハードウェア] > [ホスト] > [メンテナンスモードに入る] で有効にできます。このプロセスでは、ライブマイグレーションを使用して VM を自動的に移行し、CVM を停止してホストを隔離します。AHV の場合、CLI コマンドは `ncli host maintenance_mode id=<host_id> enable=true` です。

メモリ増設 :メンテナンスモードに入った後、ホストの電源を安全にオフにしてメモリを追加し、その後電源を再びオンにしてメンテナンスモードを終了することができます。

ウェブ検索結果からの参考文献 :

Nutanix Bible (<https://www.nutanix.com/go/the-nutanix-bible>)には、メンテナンスモードはホストハードウェアのアップグレードに必要な最初のステップであり、メモリのアップグレードなどの変更を行う前にVMが移行され、ノードが隔離されることを保証する」と記載されています。

質問: 86

What additional step is required for LCM to upgrade an AHV host that has GPUs?

- A. Use Direct Uploads to upload appropriate driver bundles.
- B. Run LCM in dark site mode so it can update AHV independently.
- C. Create an agent VM on each host that has GPU drivers installed.
- D. Update NCC to the latest version and re-run Inventory.

正解: (正解を表示します)

Nutanix Life Cycle Manager (LCM) relies on validated firmware and driver bundles for hardware components. For GPU-enabled hosts, LCM documentation states:

"GPU-enabled AHV hosts require GPU driver bundles to be uploaded manually via the Direct Uploads mechanism so that LCM can validate and upgrade the necessary GPU components during workflow execution." GPU drivers are vendor-specific and not always available in the standard catalog, so the administrator must upload them before LCM can orchestrate the upgrade.

Running in dark site mode does not provide missing GPU bundles. Creating agent VMs is unrelated to GPU driver operations. Updating NCC improves validations but does not provide GPU support files.

Therefore, Direct Uploads of GPU driver bundles is required.

有効的な**NCP-MCI-6.10**問題集はJPNTTest.com提供され、**NCP-MCI-6.10**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**NCP-MCI-6.10**試験問題集を提供します。JPNTTest.com NCP-MCI-6.10試験問題集はもう更新されました。ここで**NCP-MCI-6.10**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、<https://www.jpntest.com/shiken/NCP-MCI-6.10-mondaishu> 176問、30%ディスカウント、特別な割引コード:

JPNshiken」